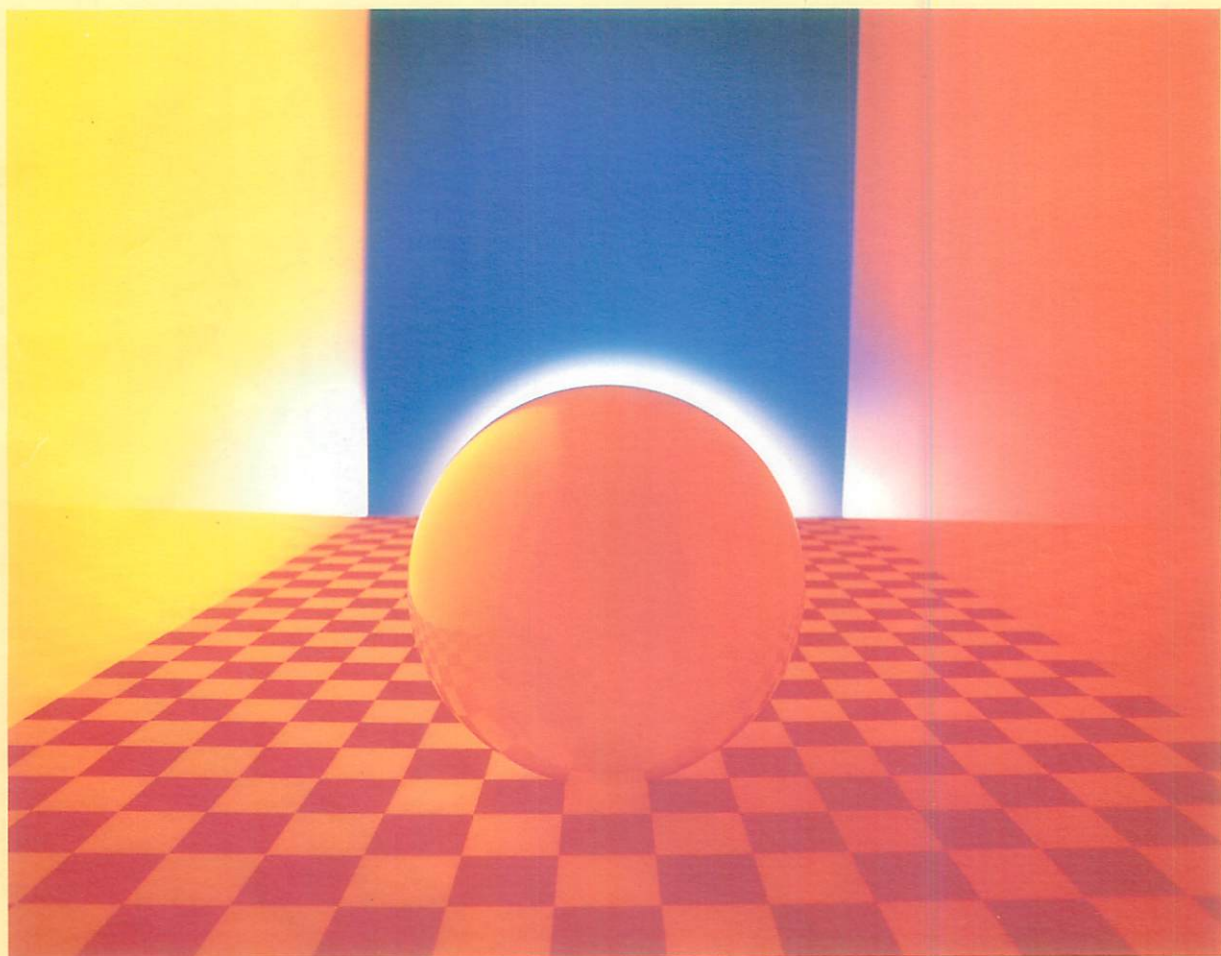


WORKER'S COOP



労働者協同組合への招待

働くことの新しいかたちを みんなで考えてみませんか。

いま、働く仲間の夢が新しく大きな一歩を踏み出そうとしています。
ひとりひとりが資金を出し合い、

協同の知恵と力で運営されるワーカーズ・コープ（労働者協同組合）。

「自立・協同・愛」をテーマに、

生活の向上と社会の希望を実現してゆく人々の集まりです。

雇用され、管理され、賃金をもらうという従来の労働のかたちとは

まったく違う発想の企業体として、

ヨーロッパではすでに長い歴史があります。

人間らしい働きかたや金銭のためだけでない仕事づくりに、

日本でも多くの仲間たちが素晴らしい実績を重ね、

その役割はさらに大きくなろうとしています。

働く人すべての夢の実現のために、いま、たくさんの方の情熱が必要です。

あなたとあなたの仲間の手で、大きく育てて欲しいのです。

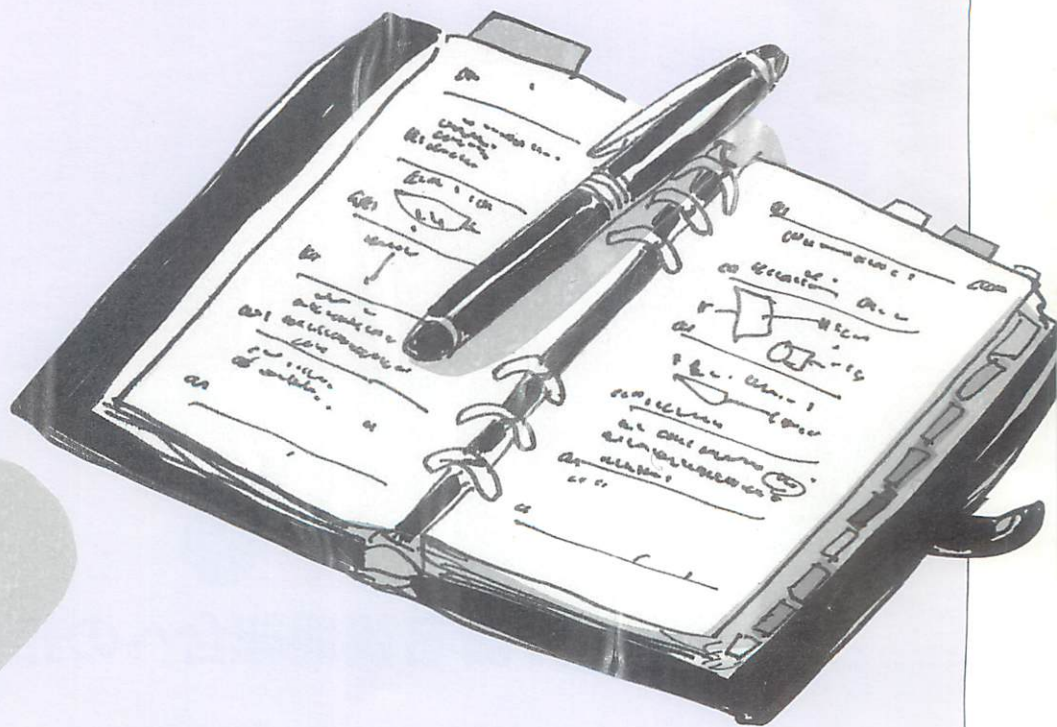
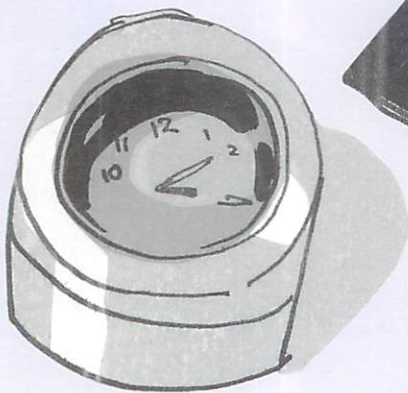
設立について

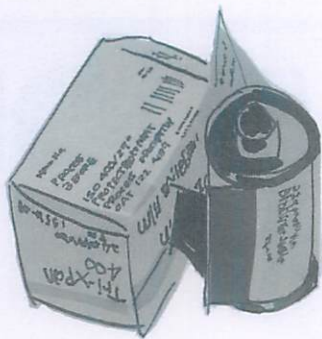
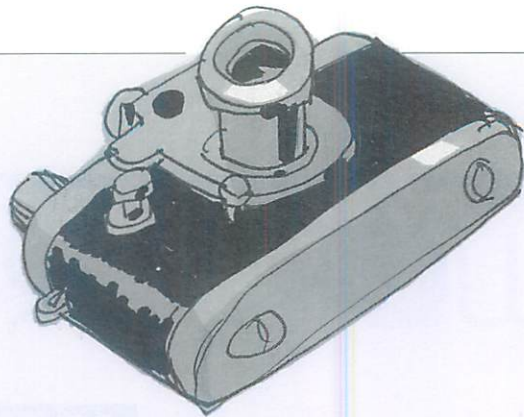
人がいる。

仕事がある。

仲間が集まる。

ワーカーズ・コープに参加する代表的な方法は3つあります。





ワーカーズ・コープ（労働者協同組合）に参加するための資格はたったひとつ、「自立した心を持って働く」ということです。誰かに頼ったり、誰かのせいだと考える前に、自分たちでどうすべきか考え行動することが原則です。自立した心があれば、ワーカーズ・コープは、年齢も性別もさまざまなハンディキヤップも関係なく、誰でもつくり参加することができのです。

その1 仲間を見つけて、始めてみる

近くや身の回りに具体的な組織も仕事も見あたらないが、ともかくワーカーズ・コープに参加したいという意思のある人は、全国130カ所の中高年雇用福祉事業団あるいは60カ所のセクター事業団に参加する方法があります。資金と労働力を出資するというワーカーズ・コープの母体として、さまざまなノウハウが蓄積された多くの仲間たちが受け入れてくれます。また、新たな業務を始めたいという人にも、きつとバックアップやアドバイスをしてくれることでしょう。

その2 仕事があるから、始めてみる

さて、まず始めに具体的な仕事確保されている場合には、なによりも必要なだけの人材の確保と技能の習得が問題になります。この場合、なるべく早く人員や資金などの具体的な数字を設定し、募集や研修などの準備期間を充分に取ることが重要です。

その3 いまある組織で、始めてみる

ワーカーズ・コープ設立の母体として、いま

皆さんが属している労働組合などの組織は、きわめて大きな可能性を持っています。第一に、経験豊かな技能を有した人材（OBも含めて）がいること。第二に、立ち上がりの資金繰りが容易なこと。さらに、具体的な仕事が見つけやすいなどの利点があります。

運営について

ワーカーズ・コープの運営は、

人間ひとりひとりが、主人公です。

ワーカーズ・コープの組織運営は、ひとりひとりが経営意識を持ち、みんなが主人公としての自覚と責任を持つてゆくこと、ガラス張りの経営が大事なポイントです。運営は労働者協同組合7つの原則に基づいてすすめます。

出資金について

出資金は、活動を支えるエネルギー。

ワーカーズ・コープ自立のための事業資金です。

ワーカーズ・コープ（労働者協同組合）は組合員ひとりひとりがオーナーです。

一般の会社で雇用されるのに出資金はいりませんが、ワーカーズ・コープに加入し仕事をするためにはひとりひとりの出資金が必要です。この出資金は、一般企業の株式でも入会

その2も同様ですが、設立のための留意点は設立委員会を設置して半年から一年間の準備期間を設け、その間に事業資金としての出資金を積み立て、事業内容、定款、規則などを検討、必要な技能も研修などにより習得し、事務所等も確保しておく必要があります。

社長もいない。社員もいない。

新しい生き方・新しい働き方のために

労働者協同組合7つの原則(案)

1. 「徹底民主主義」を通じて労働者が企業の主人公になります。
2. よい仕事をし、まっすぐに貢献します。
3. みんなで出資し、事業計画をつくり、仕事を拡大して、生活を向上させます。
4. 労働と教育を基礎に「自立と協同と愛」の人間に成長します。
5. 全国的観点と変革の立場に立って、協同組合運動を進展させます。
6. 労働組合運動や地域の運動との連帯を強めます。
7. 人類の危機を克服する運動を進め、国際連帯を強めます。

金や会費でもありません。組合員がワーカーズ・コープに加入している間、事業活動を支え組織として自立してゆくために必要な資金なのです。また、その用途はすべて組合員が決めることになっています。

WORKER'S COOP

CONTENTS

労働者協同組合を知っていますか どのようにつくりだすか

表2

特別インタビュー NHKアナウンサー・古屋和雄 (聞き手・永戸祐三)

3

『朝日新聞』インタビュー 人類の五つの危機克服を 中西五洲

8

ルボ・新労働者協同組合の探検 対人サービスからゴミリサイクルまで
ヘルパー事業(阪神中高年)／ゴミ資源リサイクル(群馬・玉村)／公園緑化(京都)

10

「よい仕事」を「みんなで話合い」 1歩1歩、労働者協同組合へ
生協物流(いばらきCOOP・京都生協・他)

14

地域社会と生活のすみずみに労働者協同組合を 永戸祐三

18

WORKER'S COOPの誕生を 私は期待します

22

緊急提案 「高齢者生協」づくりの提唱 高齢者が元気に生活できるまちづくりを

24

労働者協同組合へのチャンネル探し
ほんとうにできることをさしめすこと 学生たちとの対話から 佐藤和夫

26

「仕事おこしの経済学」からみた労働者協同組合 池上惇

28

労働運動の一環として

外谷富二男／小島忠夫／芹沢寿良／内山哲朗／黒川俊雄／柳沢敏勝／木下武男

29

広がり深まるヨーロッパ労働者協同組合
ヨーロッパの新しい波 菅野正純 しめされた労働者協同組合の可能性

30

海外レポート

スペイン(中川雄一郎)／アメリカ(富沢賢治)／イタリア(手島繁一・岡田全弘)

31

労働者協同組合への招待 定価650円(税込み) 1992年1月25日初版発行

■発行・編集人: 中田宗一郎 ■アートディレクター: 塩崎勝利 ■編集スタッフ: 松沢常夫、飯島信吾、矢吹紀人、小倉淳、藤本とも子、鈴木啓子、五味明憲
■協同編集・発行: 中高年雇用・福祉事業団(労働者協同組合)全国連合会(豊島区雄司が谷3-22-10 TEL.03-3987-5919)
シーアンドシー事務所(文京区関口2-2-8 ファミール目白坂303 TEL.03-3944-0962 FAX.03-3944-0963)

●本誌掲載の記事、写真等の無断複写・転載を禁じます。

多様な価値観で生きられる社会に

NHKアナウンサー
古屋和雄

INTERVIEW・KAZUO FURUYA

INTERVIEW



労働者は雇われる存在ではないのか

永戸 私たちはこれまで、「高齢者事業団」「中高年事業団」という名前前で、失業者、労働者自身の力で仕事を確保する運動をやってきました。

この運動を始めたのは、「ニコヨン」とよばれていた失業対策事業に働く人たちの労働組合だったんですが、当初は役所が仕事を保障しないから、やむをえず自分たちでやるんだ、労働者が経営をやるなんていうのは「本来おかしい、邪道だ」というような声もあつたんです。

しかし、やってくるなかで、労働者っていうのは、資本家に雇われる存在としてしかないのか、地域社会というのも資本主義企業がいてくれない存在じゃないのか、いやそうではない、人間存在にふさわしい働き方、生き方というものが、労働者が主人公になる企

教育、女性の問題、高齢者など福祉のこと…。

テレビの番組を通して現代社会のかかえる問題に光をあて、視聴者とともに考えてきた古屋さん。「労働者が事業と経営を担い、地域や働き方を協同して変えよう」と語りかけるユニークな出合いは、二時間に及ぶものだった。

業形態があるはずだ、と考えるようになり、そうした経験が世界にいっぱいあるということも知って、五年ほど前から、はつきりと労働者協同組合をめざすようになったんです。

首切られた家族の苦悩——涙

古屋 僕は六年間、朝の「おはようジャーナル」やってて、一回だけスタジオで泣いたりしたことがあるんですよ。

九州の高島炭鉱で働いていたお父さんが首を切られるわけです。奥さんは体の具合が悪くて長崎の病院に入院してて、息子と娘と一人ずついて。お父さんは、このままだら手当てだけで生活することになっちゃうから、名古屋の地下鉄工事現場に働きに行くことに決めるんです。すると息子は、「家族っていうのは「一緒にいるもんだろ」とお父さんを問いつめる。お父さんはずっと働きっぱなしの無口な人だから、チビチビやりながら「だって

お前らを育てあげにやいかんばい」とかいつているわけですね。

それで、結局行くことになって、長崎の駅で、さあ出発するとき、病院から奥さんがぬけだして見送りにくるんですね。夫は列車の窓に手をやる。奥さんは外から窓に手をあててガラスごしに手を合わせて何にもいわない。

僕はスタジオへ戻ってきたときぐっと胸がつまってね、泣いちゃったんですよ。国の発展とかのために、日本のいしすえ、土台を真面目に一生懸命につくってきた男たちがですよ、なんで産業構造が変わったっていうだけでボーンと捨てられるのか。仕事をなくすっていうことがあっていいんだろうかってね。それと、そういうなかでも夫婦の情愛とか親子の絆ってのはすげえなあっていうふうに思ったりね。いろんなことがうずまいちゃって、絶句して、涙ぐんでしまったんです。



永戸 あのことろ、夕張でも炭鉱の事故があつて、閉山になる。これに反対して、通産省や道庁に座り込んだりたたかいがされたわけですが、私は、「夕張で労働者協同組合をつくってやろうじゃないか」と訴えたんです。

ボタ山は処置をしないと燃えるそうで、実際失業した労働者は、その仕事をしているんですね。その仕事は炭鉱事故を起こした「人殺し企業」(現地の人たちはそう叫んでいた)の関連企業がやっていて、人件費で落ちてくるのは一割しかない。一億円の仕事なら九〇〇〇万円は「人殺し企業」にとられている。それなら労働者が自分たちで企業をつくって請け負つたらいではないか、といったわけです。それが地域を変える力にもなるだろうと。

古屋 ええ。

永戸 あの事故の時、救出に入った労働者が事業団にいますが、「永戸さんね、あれは救出なんでものじゃないんだよ、死体の部分をかき出してきて、あとは違うものをのせて人らしくかぶせてやるだけなんだ。しかし労働者ってのはバカみたいなものだと思つてう」つていうんですよ。

古屋 それは会社に雇われてる労働者だけでなく、農業でも漁業でも同じことがいえますよ。国策に沿ってやったのに、残ったのは借金だけ。そして家族がバラバラになり、一番弱い高齢者のところに一番しわよせがいく。そうさせてきたものは何かつていうことをほんとうに見なきゃいけない時期だと思つてですね。

INTERVIEW・KAZUO FURUYA

「義務依存症」を超えて

古屋 僕はよく「義務依存症」というんですが、自分で義務をつくり出しながら、自分が行かないと会社がまわらないとかいって少しぐらい体悪くても自分でつくり出した義務に頼り、自分を鞭打ちながら生きていくっていうところがある。高度成長のころというのは、それでずっと働きづめに働いてきたんだと思うんですよ。それがたしかに、戦後の貧しかった日本を変えてきた。しかしそこでできてきたのは、三角形の異常に大きなピラミッドだったんです。一部のトップがいて、真ん中に正社員がいて、まわりに派遣の人たちがいたり、あるいは下請けの業界の人がいたり、底辺に高齢者がいたり主婦のパートがいたり、あるいは学生のアルバイトがいたり。最近ではそれでも足りなくて外国人労働者だとか。

そうすると、結局はそういうシステムのなかでギチギチ働かないと、いつでも窓際にいつていただいて結構ですよということになる。主婦の労働者はいるし、あるいは高齢者もいっぱいいるし、学生アルバイトでもいいんですよ、脅かされながら尻をたたかれながら、お父さんたちはいつまでも家に帰れない。

永戸 ええ。

古屋 こうして 三角形のピラミッドをキチキチとつくってきける間に、環境の問題や子どもの教育、あるいは高齢者とか、そこからはみだしたもののつてたくさんあるんですね。

若い人たちが自分は何をやりたいかということと明確にもたないでしょ。そういうふう

に教育される社会状況が、非常に危ないって思いますね。「指示待ち族」でいわれるままにしか動かない。そういう人たちがやっぱり会社都合のいいような働き方をさせられて、自分が何をしたいのなんて考えない。どの時代でも、その時代のある種の成功物語ってつくられるんですよ。こうすれば成功し幸せなんだよっていうことを、必ず為政者はつくりますからね。それにハイハイと乗ってるとえらいめにあうわけで、それはしんどいけど自分なりに考えなきゃいけない。

価値観が問い直される

永戸 そういう意味では、チャンスでもあると思うんです。企業はその地域でもうからないとなれば、国境を越えてどこへでも行ってしまう。その時、われわれはボーゼンとしているわけにはいかない。やはり人間存在とは何だったのか、豊かさとは何か、競争に勝たなければいい生活はできないのか、というような価値観が一つひとつ問い直され、人間が人間本来の姿として労働をやる、企業をやるという形——つまり、相互に依存し合う関係の人間が、相互に助け合い、協同して生産やサービスの事業もやる、ということがあつてしかるべきだ、という考え方が受けとめられてくる。

企業が逃げたつて、われわれ自身の内在的な力を発揮して地域を守るはずだ、立派にやってみようじゃないか、そのためには、従来のような、企業に雇われていい生活をした、という枠組みだけじゃだめなんじゃないか。こういうことが正面から考えられるようになってきたと思うんです。

しなやかに働き生きる社会をつくっていく

古屋 たしかに、お弁当屋さんなんかを主婦の人たちが集まってやるケースなんかもふえてきましたからね。自分たちで会社をつくるって。

お年寄りのためにとか、善意で発足しているところが多いですから、これも入れよう、あれもと、材料費が六〇%にも七〇%にもなつて立ちいかなくなるとか、そういうせめぎあいのなかで苦労しながらやっておられますね。イタリアでも「コーペラティバ」というのを組織して、精神障害の人たちも集まって三十何職種だったかものすごい職種をつくりだしてるんです。それでレコードをつくったり、それぞれの能力を活かして高度なものをつくっている。そういうように、障害者の人も中高年の人たちも働き、主婦も自分の社会参加をするというふうな「しなやかな社会」にしていかなければいけないんですよ。

僕自身でいうと、生まれ故郷の山梨県の河口湖というところにいずれ帰つてね、童話でも書きたいなって思ってるんです。いまNHKさんにいるっていうのは、社会がどうなってるのかを勉強させてもらう場だと思ってます。だから、現場にずっといていろんなことを見たいから、人より出世が遅れようが全然かまわない。誰でも、自分が会社のなかでどうなるのかっていうのは、別のチャネルつてのが必要なんじゃないでしょうか。

永戸 私たちはいま、一つの実験をしているんだと思いますが、資本のものととは違う、労働者自身の事業・経営のあり方ができ

INTERVIEW・KAZUO FURUYA

PROFILE

古屋和雄（ふるやかずお）

1949年生まれ。早稲田大学政経学部を卒業し、NHKに入局。
福井放送局、釧路放送局を経て、
1978年よりNHK放送センターアナウンス室所属となる。
6年間にわたり「おはようジャーナル」のキャスターを勤め、
現在「日曜インタビュー」などで活躍中。
著書に「『愛されたい』症候群」「心をむすぶ日本語」（講談社）がある。

インタビュアー・永戸祐三（ながとゆうぞう）



つつあるし、協同組合企業群ができる見通しが出てきました。

そのなかに、ゴミ・環境問題と高齢者問題を位置づけているんです。ゴミ問題は結局、処理できないようなものはつくりたくないようにし、手選別を徹底させてリサイクルさせることしかない。高齢者問題は高齢者自身の力や地域の力を結んで高齢者生協をつくり、人生

の最期まで協同組合形態で面倒を見合おうじゃないか、「助け合い」「協同」ということを基本原理にしていこうじゃないか、と具体化を急いでいるんです。私はそれが社会のありようにいろんな影響を与えるだろうと思っています。

古屋 そうですね。いま女性たちは「さあ、これからだ」といっていますが、男たちも、自

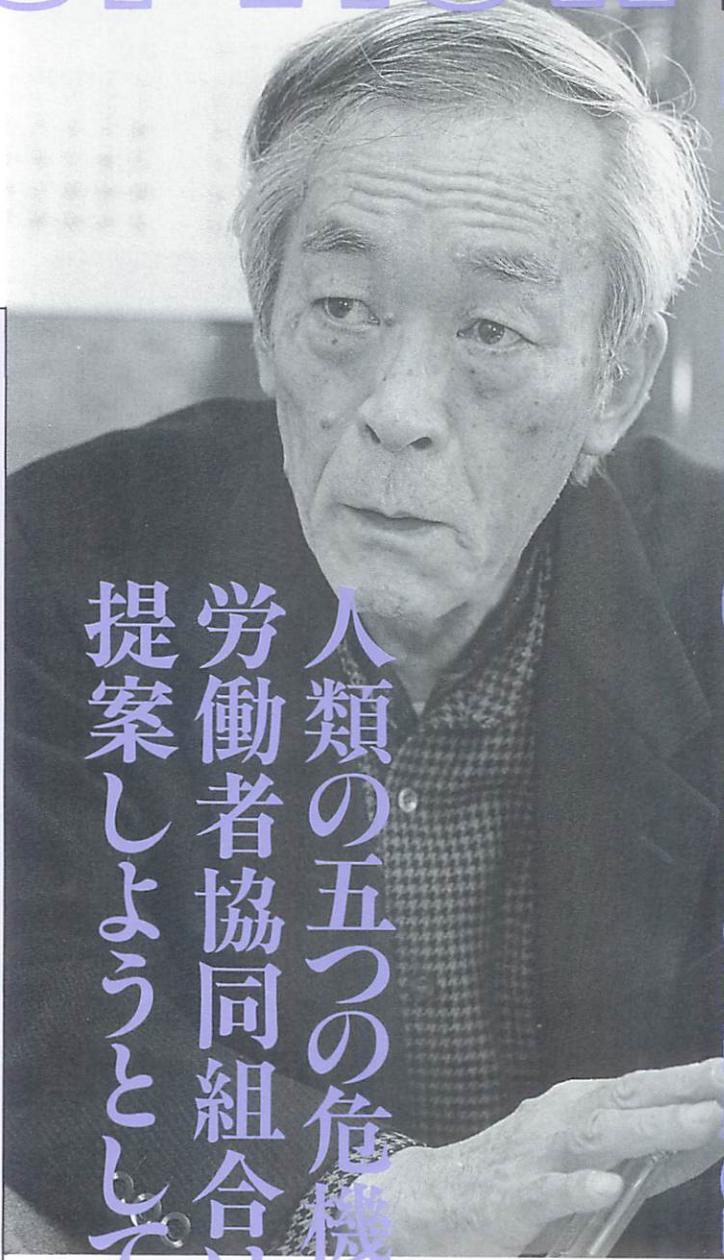
分が何をしたいのかということから、もう一回、夢にかける、ということができる社会になつてきたと思うんです。

これからの一〇年ていうのは、いまの日本をつくりあげてきた三角形のピラミッドとは違う、本当にしなやかな社会をどうつくっていくかっていう課題が、私たちに課せられた一〇年だというふうに思っています。

Interview

大反響を
もたらした
『朝日新聞』
インタビュー

Foshtu Makkoishi



人類の五つの危機克服のため 労働者協同組合は今、何を 提案しようとしているのか

◆中高年雇用・福祉事業団（労働者協同組合）
全国連合会が、このほど開いた第二回総会
で、労働者協同組合運動を一層強く推進する
方向を明確にしました。労働者協同組合とい
ってもまだ一般になじみがありません。分か
りやすく説明していただけますか。

は全くなかった、新しい企業を目指す運動で
すね。私らは労働者協同組合を労働者が企業
の主人公になる運動と呼んでいます」
「具体的にいきますと、組合員である労働者
は皆、先ず出資をする。しかし、出資額の多
寡で発言権に差が出るということはありません
。出資額にかかわらずひとり一票です。こ
れが一般の株式会社と決定的に違う点でしょ
うね。そして、この組合員は四つの権利を
行使できる。先ず、企業の基本計画を全体で

協議して決めること。第二は、みんなで決め
たことの執行に責任を負うこと。第三は利益
が出たら、それを処分する権限を持つ。第四
は執行部を選ぶことです」
◆どうしてまたそんな運動を始めたのですか。
「一〇年ほど前から、私は、人類は五つの危
機に直面している、と主張してゐるんですよ。
第一は核戦争の危機。第二は、南北問題の深
刻化。富める先進諸国と、貧しい第三世界の
差がますます広がり、深刻な対立を生んでい



中高年雇用・福祉事業団
全国連合会理事長

中西五洲



労働者が企業運営 徹底した民主運営で競争力もつく

ということですね。第三の危機は、人間性の荒廃。一言でいうと、自分さえよければいいという人間を多数生み出しているということ。四番目が地球的な規模での環境汚染。五番目は資源問題。人類はまさに地球の資源は有限であるという問題に直面しています」

利潤原理を克服したい

「とにかく、深刻な人類の危機が進行している。そのことの主要な原因は何かというと、やっぱり現代社会が利潤原理の社会だからだと思っただけです。利潤原理の社会とは、もうけることを何よりも優先させる社会のことです。そうした原理に基づく大量生産、大量消費といういきかたが、こうした深刻な危機を引き起こしているんですね」

「だから、人間が生き延びようとするなら、生き方を変えなくてはならない。利潤原理を克服して、新しい原理で生きなくてはならない。社会主義というのは、本来、そういう新しい原理に基づく社会を目指したものだっただけなんです。ソ連型社会主義は失敗してしまっただけというわけなんです」

「利潤原理に基づく資本主義的私企業が人類の危機を生み、ソ連型社会主義が試みた国有・国営企業も失敗したとなると、残された道はないのか。それがあるんですね。協同組合企業なんですよ。協同とは、人が人を支配し、支配されるという関係ではなく、互いに協力しあう、助け合うということ。そうした企業原理に基づく企業形態が協同組合企業なんです。いわば私企業と公的企業の中間的役割を果たしている第三の企業とみていいですよ」

「人類が創造した協同組合企業にはいろんなものがあります。先ず、生産・サービスの協同組合。次いで、流通関係の協同組合。生協がこれに当たります。三番目が文化関係の協

同組合。四番目が、信用とか共済の協同組合。日本では、生産・サービスの協同組合が決定的に不足している。私たち労働者協同組合が目指しているのは、この生産・サービスの協同組合なんです」

やる気こそ最大の武器

◆でも、現代の資本主義社会は激しい競争社会です。企業をそんなに民主的に運営していたら何事にも時間がかかり、効率の面でおくれをとって、他の一般企業と太刀打ちできないのではありませんか。

「いや、勝てますね。日本の企業の経営者が一番心配しているのは、労働者がやる気になつてくれるかどうかということなんです。だから、QC（品質管理）とか、提案制度を設け、報奨金を出すなどして、自発性を引き出すようにしている。だけど、企業の基本計画の策定に彼らを参加させることはしない。それに、利益を上げて、その処分権には手を出さないでしょ。それでは労働者は本気でやる気にはならないですね。現に、あちこちで企業離れが起こっている」

「その点、私は、最大の武器を持つておるわけです。何しろ、何事にも徹底民主主義を貫くというわけですから、これが労働者にやる気をもたらしんです。労働者がやる気、自発性さえ持てば、効率もよくなるから、私企業より優位に立てる。むしろ、一番の問題は資本をどうやって集めるかですね」

◆しかし、経営にタッチするなんて面倒くさい、一定の資金を保証してくれたら雇われ者でいた方がいいという人も多いのでは。

「そういう人が今は圧倒的ですね。しかし、定年近くなると、寂しくなる人が多いんじゃないかな。一生懸命働いたので会社は大きくなった。が、自分の一生は果して何だったのかと」

◆労働運動は今のところこの運動に否定的のようですね。

「労働者は資本家に搾取された分を取り返せばいいんだ、労働者が会社を興すなんて邪道だ」という考え方が依然として強いんですね。それに、会社あつての労働者じゃないか、だから、労働者は会社をもちたてておれればいいんだ、という、労使協調的な考え方も強いんですからね」

ゆくゆくは製造業にも

◆労働者協同組合はいまどのくらいあるんですか。

「実際には事業団と名乗っているところが大部分ですが、全国で約九〇。そこで働く人は七〇〇〇から八〇〇〇人。事業高は年間ざつと二〇〇億円ですね。事業内容は、ビルのメンテナンス、生協の商品の仕分け、公園の緑化、ゴミのリサイクル事業、食堂経営などです」

「この他、争議中に自主生産を始めた労組や、さまざまな労働者のグループが労働者協同組合を目指して動き始めている。協同組合方式で学校を作ろうという動きもあります。私どもの連合会としては、九五年までに組合数四〇〇、組合員約五万、事業高一千億円にしたいと考えているんですよ。ゆくゆくは製造業にも進出したい」

「世界的には、スペイン、イタリア、フランス、インドで盛んです。カナダ協同組合中央会の会長をしていたレイドロ博士が八〇年に発表し、世界的話題を呼んだ報告『西暦二〇〇〇年における協同組合』でも、今世紀の残りの期間、労働者協同組合に多くの期待が寄せられるだろう、と述べています。展望は明るいですよ」

（『朝日新聞』一九九一年六月八日夕刊 聞き手・編集委員 岩垂 弘）

THE WORK of Worker's Coop

新

労働者協同組合の探検

阪神中高年企業組合



対人サービスからゴミ資源リサイクルまで始まっている

「労働者協同組合ってどんな仕事をするの」という疑問が、だれにでも浮かんでくる。システムもこれまでと違うし、なかなかスリットと入っていけない。そこで現地に飛んで、実際の労働現場と仕事おこしにとりくんで、「労働者協同組合」をめざしながら地道に働く人たちをルポした。やっぱ、これからの高齢化社会やリサイクル社会になくはない人間労働集団だった。

ヘルパー事業で高齢化社会を支える

兵庫県西宮市、阪神中高年企業組合は、灘の酒として有名な日本酒メーカーの工場が建ち並ぶ一角にあります。

この事業の目玉はなんといってもホームヘルパー事業です。現在、五四人のヘルパーさんが市内の一三六軒のお宅でお年寄りのお世話をしています。このヘルパー事業は市からの事業委託で、補助金も出ています。九一年度からは厚生省の認可委託事業にもなりました。ヘルパーさんの健康保険や労災、ボーナスや退職金といった労働条件もたいへん整っています。

ヘルパー事業をはじめたのは今から二三年前のこと。まだ、国や地方自治体に、高齢化社会に対する具体的な政策が何もない頃でした。高齢化社会になれば、寝たきり老人も増えてきます。お年寄りが住み慣れた家での介護を望んでも、現実にはなかなか家族だけでお年寄りのケアをすることはできません。なんとかスウェーデンやデンマークのような福祉先進国のヘルパー制度を具体化できないだろうかということで西宮市と話し合い、事業団独自のヘルパー制度をスタートさせたのです。ちょうど失業対策事業の入口が閉められ



たときで失業したたさんの女性の雇用対策の面でも意味のある事業でした。

現在活躍しているヘルパーさんの年齢は三〇代、四〇代、五〇代が中心。勤務は九時半から四時半まで。お昼に一時間の休憩をとります。ほとんどの人が買物や料理、洗濯といった家事だけでなく、患者の身体を拭いたり、下の世話をするという身体介護もするヘルパーさ

んです。身体介護は誰にでもすぐに上手にできるといえるものではないので、ヘルパー集団の協力が大切になってきます。ヘルパー会議を開いたり、市の学習会に参加したり、全国で行なわれている研修会にヘルパーさんを派遣したりして、常に介護技術の向上をはかっています。

ヘルパー歴一〇年というベテランの吉川さんはリハビリの名人です。今担当しているお年寄りは三〇年以上寝たきりという七〇歳の男性です。この方は三〇年間一言もしゃべれなかったのですが、吉川さんが毎日話しかけることで、息子の名前がいえるようになり、歩けなくなりましたが、いまでは歌も歌えるようになり、リモコンを使い電動ベッドを自分で動かせるようになりました。歩けなかった人が歩けた時、話せなかった人が一言でも話せるよう

になった時、ことばでは言い表わせないような喜びがあると吉川さんはいいます。

このように、ヘルパーさんたちはただ身の回りの世話をするだけでなく、お年寄りが毎日、生きる喜びを感じて暮らせるようにと心がけているのです。

このほか、阪神中高年企業組合では福祉互助会をつくり、車椅子用のリフトバスでお年寄りや障害者の病院やリハビリへの送り迎えのサービスもしています。住民のさまざまな要求をくみ上げ、そしてそれを市に事業として要求してゆく。そのことで市も住民に何が 필요한のかを知るのです。このようにホームヘルパー事業は地域のお年寄りのケアに貢献するとともに、地域全体の福祉レベルを高めていく役割もはたしているのです。

群馬中高年雇用福祉事業団

リサイクルで不燃ゴミを資源に変える

「大量生産・大量消費・大量廃棄」というあり方を根本的に再検討し、「焼く、埋める」から、資源を資源として生かす道へ——こう訴え、しかも事業として成功させているのが群馬県玉村町の群馬中高年雇用福祉事業団です。

この事業団はもともと理事長の小川和之さんが、高齢者や障害者の働ける場所を作ろう、とはじめたもので、最初は草刈りや町の清掃からスタートしました。八四年に玉村町からビンや缶などの不燃ゴミをリサイクルしてみないかと依頼され、翌年町の委託事業として

活動を開始しました。しかし、当初は施設らしいものは何もなく、空き地が仕事場という状態でした。いまは町営のクリーンセンターの一角にあるリサイクルセンターで作業が行なわれています。

現在ここでは周辺の町をあわせ、三町一村五万七〇〇〇人分の不燃ゴミ四〇〇〇トンが処理されています。そしてそのゴミの八〇パーセント、三二〇〇トン以上を資源化しているのです。金額にして二〇〇〇万円。まさに、ゴミも分ければ宝の山というわけです。

ここでのリサイクルの特徴は団員の手によ

新労働者協同組合の探検



る徹底した選別を行なっていることです。パッカー車で収集されてきたゴミは、まずビンール袋から出され、ダンボールや布を取り除いて、残りのゴミをベルトコンベヤーで二階の選別場へ運びます。はじめに大きな磁力選別機でスチール缶が集められ、そのあと五、六人の団員がベルトコンベヤーの上を流れていくゴミのなかからアルミ缶、茶色の瓶、緑



の瓶、白い瓶、そしてそのガラス片というようにそれぞれ分別していくのです。作業は早くとても正確です。
現在、事業団の団員数は約六〇人ですが、そのうち二〇人が高齢者、心身障害者も二〇人います。選別作業には障害のある人がたくさん参加していますが、八時半から四時までの勤務時間の間に昼休み一時間と三〇分の休憩が二回入り、疲れ過ぎないようにスケジュールが組まれています。こういった労働時間や賃金など大切なことは事務局と団員の代表で組織する理事会で決められています。
また、事業団では子ども会の集団回収も行なっています。子どもたちが地域の不燃物を



集め、事業団が収集、処理します。そして売上金の六割を子ども会に返し、年四回回収活動をするれば、中学生になるときに時計が贈られます。この活動には、子どもたちにゴミが資源であることを知ってもらいたい、という願いが込められています。この子どもたちが大人になる一〇年、二〇年後には「リサイクルは当たり前」という意識が育って欲しいということなのです。
町のゴミ処理費を大幅に軽減化し、その事業が高齢者、心身障害者の働く場を作っている。さらに住民の生活意識の向上にも一役買っている事業団のリサイクル事業は一石何鳥もの町づくり、人づくりを実現しているのです。



京都高齢者事業団

観光都市京都の美しさを守り続ける

京都の観光名所 金閣寺。誰でも一度は立ち寄るといふ金閣寺には一日に何千人という観光客が訪れます。とくに、観光シーズンには人波の途絶える間がありません。しかし、その参道にはゴミひとつなく、驚くほどきれいです。実はこの金閣寺の清掃をしているのが京都高齢者事業団の団員なのです。

京都高齢者事業団ではビルメンテナンス、病院、マンションの管理といった仕事のほか、



神社仏閣の維持清掃、公園、河川の緑化清掃にとくに力を入れています。当初、金閣寺には一、二人の団員が入り、参道の草取りをしていただけでしたが、団員の仕事が増えだしたといふので、どんどん仕事が増えていきました。いまでは金閣寺の庭園、参道、トイレその他、敷地内全部の維持清掃を任されていて、毎日平均二、三人の団員が入って働いています。その仕事ぶりが評判になり、

八坂神社、大覚寺、伏見稲荷などの他の寺院からも仕事の依頼がたくさん来るようになりました。

事業団の仕事がこのように評価されているのは、ただ仕事が増えただけというだけではありません。毎日昼休みに団会議を開き、気がついたこと、お客さんからのクレームなどについて話し合います。そしてそれをお寺に情報として提出するのです。金閣寺のトイレは以前、水の出が悪い、数が少ないなどと評判が悪かったのですが、改築の時、事業団の提案を入れてトイレの数を増やし、水の出も良くなるように改良しました。掃除もいき届いたいまの金閣寺のトイレは観光客にとっても好評だとか。

せっかくの名所旧跡もゴミだらけ、トイレが汚いでは興醒めです。こういうことが旅の



印象を左右するのですから事業団の仕事が京都の観光事業に果たしている役割はとても大きなものといえるでしょう。

京都高齢者事業団ではいままた新しい街の環境づくりに取り組んでいます。それは公園の環境を良くしていこうというものです。最近、特に児童公園の荒廃がすさまじく、ひどいところになるとゴミ捨て場のようになってしまった公園もあるようです。誰かがゴミを捨てる、公園が汚れる、するとまた平気でゴミを捨てるという悪循環に陥っていくのです。

こういった公園をなんとかきれいにできないものかと、事業団では児童公園に花壇を造ることを考えました。花壇造りと年六回の植えかえを事業団が受け持ち、並段の維持管理は、公園の近所に住んでいる人々に協力をお願いしています。地域の人に自分たちの公園を自分たちで美しくしようという意識を育ててもらいたいからです。これは事業団としては全員のボランティア活動として行なわれています。しかし、観光都市京都で公衆マナーを高めていくことも事業団の大切な街づくりの仕事だと考えているのです。

観光客をいつもきれいで気持ちのいい京都に迎えてくれる、京都高齢者事業団は、まさに観光都市京都の緑の下力持ちといった存在です。



「よい仕事」を「みんなで話し合い」

共感と自己変革の文化でつくられる労働者協同組合

「主人公なんだから、みんながイヤなことはみんなやってしまおう」
「前の会社では、上の人にいわれたことをすればよかったが、ここはみんなが一からつくっていくところ。だからやりがいもある」
「からズバズバいいあえるし、それがいい、ということになればどんどん改善できる。だからやりがいもある」
九一年秋にスタートしたばかりのセンター事業団茨城事業所と栗東事業所では、こんな声が聞かれる。二七〇人と九〇人という大きな現場でも、「みんなが主人公になって」「みんなが話し合い」「よい仕事をする」労働者協同組合の姿が一步一步つくられていく。
四年前に「本格的な労働者協同組合をめざす」ことを宣言して設立されたセンター事業団。その基本理念と人間を大切に、ひたむきに努力する「自己変革の文化」が共感をよんできた。生協との大規模な提携が始まり、「協同組合のひろくまち」を具体的に展望しうるところへと発展しつつある。

生協などの広がる提携

金だけとちがう何かを求めて

京都生協滋賀物流センター

茨城県美野里町、滋賀県栗東町、いずれも過疎のまち。「新しく生協の物流センターができるのでよろしく」と、求人協力の要請に自治体や職業安定所を回ったとき、二七〇人、九〇人という数を口にする、「とても無理」と即座にいわれ、悲壮な決意をしたというが、フタを開けてみると、予定をオーバーするほどの人が集まってきた。それには応募してきた当人たちがびっくりにしている。
「こんな田舎の、人が住んでへんところで、ホシマヤだったら人が集まるわけないや」「そう

や、何ほ金出しても人が集まらん時に、よそより安いここに百何人もくるいうんは、みんな金だけとちがう何か求めているいうことやねん」
京都生協滋賀物流センターの仕事をしている事業団栗東事業所の団員はそんなふうに「自己分析」しているが、青柳宏所長(33)に聞くと、「金では他の会社にかないませんから、とにかく初めから労働者協同組合らしくやろうとそれだけを心がけました」という。最初の説明会までは新聞広告、折込チラシと

いったものだが、そこで「労働者協同組合は初めからみんなが参加し、みんなで作るところ」という訴えがされ、「一緒にピラ配り」の提起がされた。これに応えた内定者は地元への全戸チラシ配布に参加、さらに第二次説明会では面接する側にまで立った。
「えッ!」と思ったけど、「子供のことで急に休まなきゃならない時は」とか聞かれると、「私達も同じだから、交代したり助けあってやりましょう」っていったの。それで、最初から、みんなで相談しながらやる、って習慣



センター事業団：事業団全国連合自身が典型をつくり出そうと始めた事業団。全国に60カ所の事業所をもち、事業規模は50億円。



いばらきCOOP

働き方・自分の発見 いばらきCOOP・美野里町での出会い

「できたみたいね」と栗田美津子さん。
作業のやり方もみんなで改革し、みんなが
やりたがらない作業は全員でかかってワツと

やりあげてしまおうとか、「あの人は楽な仕事ばかりしている」というようなカゲ口が出ない
ように、みんなで話しあって、ローテーション

ンをつくりなおしたりしてきた。
「初めから面白くしたい私たちの物語」募集
広告の言葉が、いま始まっている。

茨城事業所はセンター事業団のなかでも最大の二七〇人という事業所。冷凍品、冷蔵品、青果物の仕分けから出荷までの業務で、午前の人、午後の人、六時間、八時間、夕方、深夜勤務と、二四時間にわたる複雑な勤務体系が組まれており、全体の業務、動きを知って協力し合うことができるかどうか一つのポイントとなる。

そこで、情報がいきいきと行き交う状態をつくるために、業務ごと、グループごとの「日報」と、これをもとにしたニュース、基本になる会議と必要に応じた会議（八時間勤務の女性の会議とか）が随時開かれている。まだまだ、みんなの思いがなかなか生かせないもどかしさもあるようだが、みんなできつくりあげたい」という思いからの真剣な討議が重ねられている。

二〇人ほどの単位でつくられているグループ（この中が四・五班に分かれる）の日報には「仲間の行動で一番うれしかったこと」「よい仕事の工夫」「意見・要望」などの項目があ



り、「たいへんな仕事の所は交替でやっていきます」「他のピックまで目がいき、互いに助け合えるようになってきた」「昼食は外に出て、お弁当をみんなで楽しく食べた」「休憩室やトイレが汚れてきた。交替で掃除を始めた」「など、空欄もなく書きこまれている。

これを書いているのはグループ連絡委員。その一人、川名尚子さんは「やっぱり自分たちの意見がいて、その意見がみんなに伝えられるラインがあるというのがいいわね。その希望が通るかどうかは別だけど」といい、

一〇歳と五歳の男の子をもつ野口正子さんも「母親專業で自分がなくなっていると感じていたんだけど、ここに来て、コミュニケーションが楽しくとれるし、社会にも目が向けられて、大げさだけど、人生の目標が少し見えてきたような気がします。朝、いくら起こしても起きず、おかあさんはテストがなくていいな」なんていつてた息子も、私が働き始めたら、目覚し時計をもってきて自分で起きるようになったんですよ」とうれしそう。

地域とも結んで、老人給食、ヘルパー事業や、夏まつりなどの行事もと夢は広がっている。

すぐそこに商品があっても、「あれ、どこにいったかな」とかいつて、さばれるだけさば

り、残業代稼働のようなことばかりやってた高校中退の青年たちが、労働者協同組合に移ってきてからすっかり働きかた生き方が変わり、「人生の落ちこぼれにはならない」と決意した、という事例なども各地の生協提携現場でずいぶんあるそうだが、ここには確かに家族——子どもたちも含めてほんとうに人間の可能性を発揮しうる条件が生まれてきているようだ。

山形・共立社生協

協同して地域の 総合的サービス

山形の共立社生協からは九二年秋オープン予定の新物流センターについて「庫内業務はもちろん、輸送・配送業務や、物流センター自体の設計まで事業団が事務局となつてやってほしい」という話が出されている。

そして、地域の人びとが求める総合的なサービスを提供する新しい協同組合間提携、協同がひろくまちづくりの実践が展望されているのだ。



みんなが働く

主人公 団づくり

障害者も働く主人公富山事業所でのエピソード

事業団ではみんなが主人公として働き、活動する状態をつくり出す取り組みを「団づくり」と、いつている。その中心に「本音の討論」がある。九〇年七月に始まったばかりのセンター事業団富山事業所でもたくさんのエピソードが生まれた。

富山協立病院の清掃の仕事が事業団に委託され、新しく団員が募集された。なかなか人が集まらないなか、一人二人と人が増えてきたとき、左半身が不自由な山下さんが応募してきた。採用するかどうか一週間様子を見て



不自由な身体でも掃除道具が持ち運びできるように工夫

全員が話し合った。

「障害者なんかには仕事はできない、かえって自分たちの負担が増える」

「障害者の自立したい、という気持ちをみんなで支えながら仕事をしていけるところが、労働者協同組合の素晴らしいところではないか。こんな討論の結果、「山下さんのできる仕事をつないで持ち場とし、他の人の作業区分をつくりなおし、一緒に働けるようにしよう」となった。仲間の真剣な、心をこめた討論に迎えられた山下さんも責任をもって仕事をや

りきるため、必死に自分とたたかった。まわりの団員も、自分たちで採用を決定しただけに、その努力し、成長する姿がうれしく、胸を打たれた。

オーナー、つまり病院側の職員＝労働者とも、本音のつきあいがつくりだされた。病院の全職場にアンケートを行い、清掃の仕事についての注文・意見を聞いたのだが、看護婦さんたちからは六八項目もの不満・要望が返ってきた。これにどう応えるか。団会議のた



面白仕事集——動物園の管理（飼育など全般）＝センター香川
遺跡の発掘（神戸事業団）
アトピー対策売店（長野事業団）



THE WORK of Worker's Coop

びに、あるいは休憩時間のたびに一つひとつについて話し合った。「自分たちは一生懸命やっているのにどうしてこんなことをいわれるんだ」「いや、忙しいなか、丁寧に伝えてくれたのは私たちに期待してくれているからだ」「こんな議論もしながら、決めたことは病院に報告し仕事の改善を進めた。

こうした中で、病院職員の日も変わってきた。「私たちが注文したいことがいろいろあっても小うるさいことをいわない方がいいのではないかと、かと思つて迷つていた。しかし、事業団の新聞をみて、想像以上の真剣な取り組みを知り、この仲間なら率直にいった方がいい、苦情をもきくと頑張つて克服されるだろうという確信のようなものを持った」(ソーシャルワーカーの芝木さん) という声が届けられ、富山医療生協の山崎専務が事業団の営業活動に同行し、知り合いの病院に「事業団が入つてくれて、私たちが勇気を付けた。自分の障害を障害としながらそれを克服し仕事を切り開いている。その意気にうちの職員もすくく励



まされている」と訴えてくれるまでになった。この営業活動には「わたしが行ったつしやうがない」といつていた山下さんと太田恵美子さんも参加し、発言もした。

「事業団なら障害者も社会復帰できると思う。私もできた。よろしく願ひします」「一生懸命やりますので、よろしく願ひします」と。

一人ひとりの可能性を信じて

当時の矢吹美樹所長はこう語っている。「自分のもっている可能性が発揮できたと、その努力に共感やけましの声が出せられたときに、人は思つてもいない力を出すものだ」ということを学ばされた。一人ひとりの可能性がほんとうに開花し、それをお互いに喜びあえる職場をつくっていくことが、団員のやる気、よい仕事につながっていくと感じます。そして、これは、民主主義の課題でもあると思います。一人ひとりの労働者が『徹底民主主義』をつらぬく労働者として成長していくことと結びついているなあと感じるのです」

その後も、新しい人が入るたびに「何で毎週、会議ばかりやるんや」とか「主人公になんかなりたくない」「清掃は手の抜けるところは抜いて、目立つところだけやって早く終ればいい」と、こんな意見が出される。



島根事業団

しかしそこを討論すればするほど、「ここはよい仕事をし、みんなで話し合つて決めるところ」という原則が深まってくる。「そのなかで、ほんとうの信頼関係が生まれるし、おたがいに責任をもつて仕事ができる。そこが魅力」と大学を出て二年もたたない清水愛子所長は目を輝かせた。

ここでは近くコープ富山の仕事もスタート、事業規模は一億円。

高橋五郎(財団法人農村金融研究会主任研究員)

農作業を請け負つて農村社会に協同を

国内農業は、いま、最後の砦ともいえるコメ輸入の自由化をめぐる大揺れである。輸入自由化は国内農業を強くする、などというたわけた理論がまかり通る。その理由として、農業後継者がいない、高齢化が進んでいるといったことが、まことしやかに流布される。これは、理由ではなくて、結果である。経済構造のゆがみ、いびつな経済政策、農業が自立できない土地政策のしほり、これらが後継者難や高齢化を招いた本当の原因なのである。

各地で農業が存続の危機を迎えているのは、その結果であらずしてなのである。農家の怠情・職業的好き嫌いが、このような結果を招いたのではないことは確かであるとするれば、理由はそこにはない。

島根県大田市では、農業後継者難と高齢化とによって、農作業をする人手が希薄になり、その結果、農作業の一部を島根中農年事業団に依頼する農家が面的な広がりを見せている。現在は当事業団の事業高全体のわずかな部分しか占めていないが、今後はさらに増加する見通しがもたれている。事業団は、協同組合方式で、農家からの注文に応じ、期待に

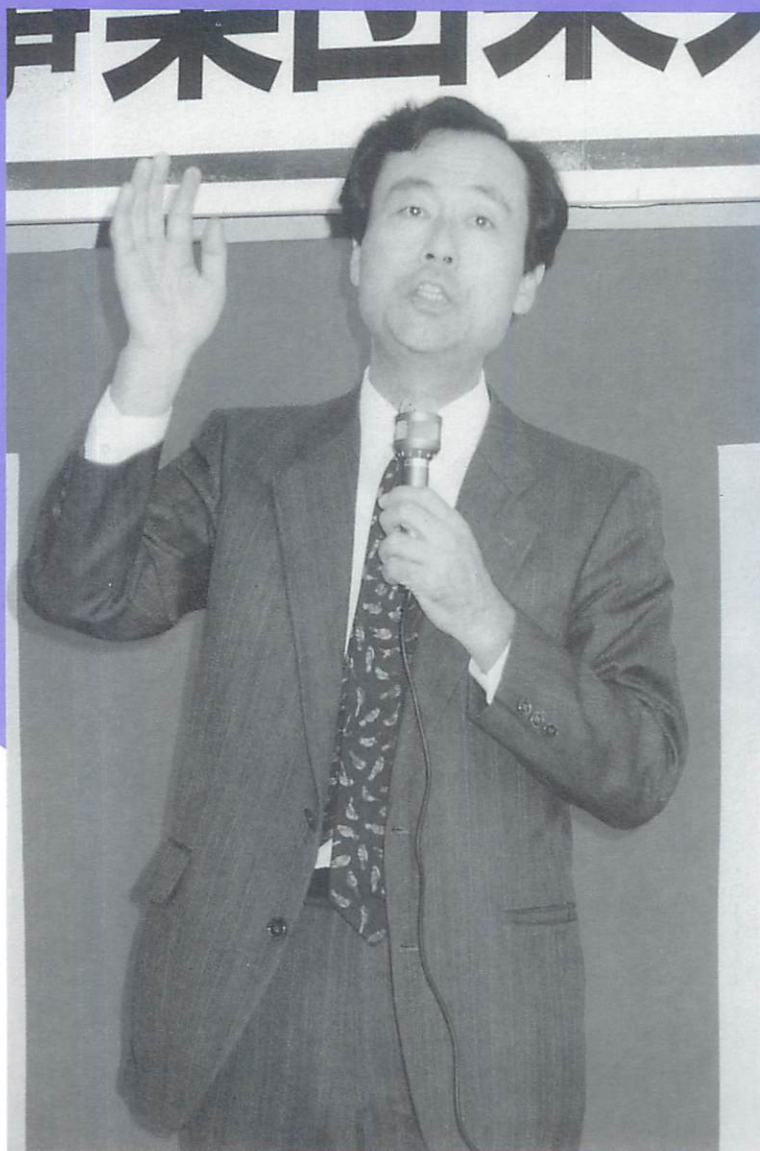


沿った仕事をする。それが農家の受けをよいものにしていく。農家にしてみれば、期待した仕事をしてくれるのなら、依頼先が事業団でなくともいいはずであるが、この地方には事業団以外、どんな注文にも応じてくれる業者はない。事業団の仕事ぶりがいいこともあって、注文が殺到する。

事業団は、農作業ばかり受けているわけではないが、もう少し、組織的に、農作業を受けることのできる仕組みがないものか、強い関心を持つようになった。事業を増やすことが直接の目的ではない。東京一極集中で、このままでは、地域全体が滅びてしまいはしないか、という郷土愛から生まれた発想である。できれば、農地を借りて、自分たちで自主的な農業経営に取り組んでみたい、という希望さえもついていた。果して採算がとれるかどうか、という問題もあるが、荒れ放題の農地を毎日みている、そういう気分にもなるのであろう。きわめて健全な心理である。このような素朴で健全な発想にもつく協同の芽を育てることが、それぞれの地域で求められるし、それこそが取り組まなければならない課題なのではないか。

地域社会と生活のすみずみに 労働者協同組合を

永戸祐三



人類が明日破滅するかも知れないといわれても、「それでも私は桃の木をうえよう」といった人がある。これが人類幸福への道だと誰もが明確にいいきれないとしても、今この時、人がほんとうに大切にされる、互いを心から尊重しあえる状態をどうつくろうかと考えない限り、未来はない。

労働者協同組合はこのあくどい拝金主義の横行を克服する道をみだし、歩みはじめたいと思う。

●●●●●●●●●●
永戸祐三（ながとゆうぞう）

1947年生まれ。現在、中高年雇用・福祉事業団（労働者協同組合）全国連合会副理事長・センター事業団専務理事。

みんなひろひろが「主人公」



上の写真を見てください。みなさんほんとうにいい笑顔でしょう。これは一九九一年一月五日、私たち労働者協同組合Ⅱ事業団に新しい仲間が誕生したときのものです。センター事業団茨城事業所がいばらき生協・美野里物流センターで業務を開始したのです。いよいよ自分たちの仕事が始まるその日、写真のみなさんは満足と期待で胸が一杯だったに違いありません。それにしても、どうしてこんなに明るい笑顔が出るのでしょうか。

もう一方の写真も見てください。こちらは事業団の新しい仲間を募るとき、その最初の出会いの一コマです。なにげない面接風景のようですが、実は面接をしている女性はいずれも、同じ席で面接を受けていたのです。一九九一年一月二〇日、京都C O O Pの滋賀物流センターに新しい事業所が立ち上がりました。時給一〇〇〇円、一二〇〇円があたりまえというご当地で、私たちの事業所ではわずか六八五円しか払えません。ところが、どうしたのでしょうか。予想を裏切って大勢のみなさんが応募してくださった。ありがたいことです。そこで、すでに仲間になってくれたみなさんに面接を手伝っていただいた、という次第なのです。しかし、こんなに安い時給なのになぜ、かくも多くのみなさんが事業団の仕事に応募してくれたのでしょうか？

組合Ⅱ事業団は雇う・雇われるという関係が存在しません。一般の資本主義的企業とはまったく違うのです。事業団を形成する一人ひとり（団員といいます）が当面のお金を出資し合い、仕事をつくり、仕事をこなし、糧を得ていく——そういうシステムなのです。「労働者の労働者による労働者のための協同組合企業」、こういえばお分かりいただけるかも知れません。

いま、この世の中を広く見渡してみますと、たいへん多くの問題、矛盾に突きあたります。食糧のこと、住むことというごく基本的なこととはもとより、日本中いたるところですむ環境破壊、文化国家と呼ぶに恥ずかしい医療・福祉の貧困、富めるものとうとうではないものの格差のひろがりなどなど、それは枚挙にいとまがありません。そういうなかで、どれだけのみなさんがご自分の仕事に、生活に満足しているのでしょうか？ 案外、生きがいのある充実した生活や自己実現、自己完結可能な仕事を求めて、内心では模索しているのではないのでしょうか？

私たち労働者協同組合の問題意識もまさにそこにあります。①生産的労働のための協同組合企業の出現によって、②労働者が企業を立派に経営できることを示し、③労働に応じた配当によって自らの資本形成を可能にしながら、④社会や地域に役立つ仕事と仲間をふやしていく——これが私たち労働者協同組合



の理念であり、活動目標です。もうけ至上主義、営利中心主義でないもう一つの働き方、生き方をめざし、私たちは実践を重ねてきま

した。そしてその根底にあるのが一人ひとりが主人公になるのだ、というごくあたりまえのことです。

雇う・雇われるの関係をこえて

いま、一般の企業社会では「差別化」という言葉がもてはやされています。同業他社間の競争において、自社製品の優秀性をこれみよがしにうったえ、他社製品を「差別化」し追い落としていくというやり方です。この「差別化」構造は困ったことに人間関係にも及んでいます。ほんらいあつてはならない「差別」が経済原理、収益第一のかけ声のもとに堂々とまかりとおっています。それは派遣労働者、パートタイマー、フリーターなど、不安定労働者をみればお分かりいただけるでしょう。正規の社員とそうではない労働者、また大会社（親会社）の社員と下請け会社に働く労働者との間には支配・被支配の構造はあっても、労働を通して感じる連帯感などまったくありません。

私たち労働者協同組合は、このような閉塞状況にたいして、大きく異をとねえたいと思

います。雇う側と雇われる側という垣根を取り払うことはできないのでしょうか。自立した労働者が集まり、労働者の手によって企業は運営できないものでしょうか？ いえ、けっしてそんなことはありません。事実、私たちは一〇年以上の長きにわたってそれを実践してきました。げんざい、事業団全国連合会には約九〇の単位事業団が加入しており、労働者・組合員総数は八〇〇〇人に達しており、年間事業高は約八〇億円を超えています。この数字だけご覧になれば、たしかに微々たるものかもしれませんが、しかし、私たちは胸を張っていえます。「人間にとって労働とは何か？ よりよい社会を創造していくうえで私たちは自らの労働を通して何がやれるのか？」——このようなことを常に考え、模索しながらも、私たちは確実に事業展開をし、仲間をふやし、実績をつくってきたからです。

時代の必然的形態

かたや資本主義経済はゆきづまりを呈し、かたや「ソ連型社会主義」は崩壊する現代状

況です。戦後五〇年になんなんとする現在、とりわけ一直線に突き進んできた日本の労働



者には、もう十分にきたるべき時代の認識があるのではないだろうか。もう十分に労働の意味を考えることをきたえられているはず。もはやこのままの形で突き進むことはできない、すでに限界だ——いかがでしょう。そう感じていませんか？ ならば、別の新しい道を探るしかありません。私たちはいまの社会構造のなかで、労働者協同組合は時代の到達点として、必然的な形態であるに違いないと認識しています。

労働者が労働者のままで事業をやるうと思つたら労働者の協同組合的組織をつくる以外に方法はないのではないか、というのが私た

相互にネットワークをくんで

クロネコヤマトのことを書いた本によると日本の警察は一二〇〇カ所の警察署をつくるのに一〇〇年かかったのに、クロネコヤマトは同数の営業所をつくるのに立った一〇年しかかからなかった（だから、すごいんだ）とのこと。日本中に網羅されたそのいずれの営業所からでも二〇〇三〇分あれば連絡のあったお客さんのところへ行けるというのですから、たしかにたいへんなものです。キメの細かいサービスが徹底できれば需要も伸びます。だからこそ宅急便が社会的に権威をもつてくるというのうなづけます。

私たち労働者協同組合も、ゆくゆくはクロネコヤマトにならいたいとおもいます。地域社会の生協や労働者、地方自治体などと共に

ちの考え方です。

もちろん、私たちの考えをこり押しするつもりはありません。一般企業でも労働者協同組合でもいいといえはいいのです。基本的には出入り自由な社会こそがいちばんよいと思うからです。このことは最低条件の民主主義のレベルの話で、なにごとにも自分で創造し、自由に選択できるという強い個人をつくるのが世の中でもっとも大切なことだからです。よりよい社会、世界を創造していくには、まず私たち一人ひとりひとりがどのような努力をしていくべきか——そう考え実践することが基本であり、基点なはず。

協同して、消費の末端である家庭まで入りこむことがほんとうのサービスではないか、そこまでサービスが行き届いてこそ労働者協同組合の社会的認知が出てくるのではないかと。日本各地いたるところに事業所があり、健康・文化・教育・福祉などの側からの協同組合づくりとあいまって、相互にネットワーク化し、さまざまな生産・サービス・インフォメーション活動を展開したい——そしてよりよい社会をめざして、地域と事業をコーディネートしていききたい——これが私たちの願うところであり、一人でも、労働者協同組合へ参加していただきたいと願っているところ

（構成・文 宇田川正宏）

WORKER'S COOP の誕生を

待期は私

まった分野がふえていく。せつばつ
まっつて一人や二人じゃどうしようも
ないことがらや分野が拡大してい
る。それからソフト関連（くらしに
やさしい）分野の仕事起こしが必要
と思う。

いろいろあつていい時期だ。農協
がビックになり、消費生協もますます
拡大している。が、これらはとも
に多くの人の手でつくり上げてきた
ものだ。後発の営みに励ましと指導
を惜しみなく送れる真のビックであ
つてほしい。それこそ協同の力とい
うものだ。

労働者協同組合は 起こせる

角瀬保雄 法政大学

労働者協同組合という、何のこ
とかと思う人が多いだろう。平たく
いえば労働者が力を集めて作った企
業だと思えばいい。労働者でも力を
合わせれば中小企業を起こすくらい
の資本を集めることは簡単である。
株式会社社の最低資本は一〇〇万円
である。一人一〇〇万円の出資で、
一〇人集まれば会社が起こせるので
ある。

普通の会社と違うところは、自ら
出資し、働き、経営もするというこ
とで、リスクを負わなくてはならな
い。その代わり雇主の二機嫌を気に
したりする必要はない。搾取も
ない。働いただけ自分たちのものと
なる。こういう道があると、失業に
びくびくしたり、「長いものには巻か
れる」ということもなくなる。労働
組合も元気になるのである。

期待すること

生協総合研究所生活研究委員

大嶋茂男

資源・エネルギーの枯渇、地球環
境問題の激化などを考えると、現代

社会がいきまわってきていることは
明らかになりました。

それでは未来の社会がどういう社
会なのか、ということが問われるので
すが、①情報公開と学びを中心とし
た民主主義の実現、②自己責任の貫
徹する協同組合を中心とした社会、
ということが重視されつつあります。
その一翼として労働者協同組合に
頑張ってもらいたい。

早く国民との協同を

日本児童・青少年演劇団協議会
事務局長 荒木昭夫

子どものために劇をすることを職
業としてきました。

人間をほんとうに豊かにする、つ
まり心の中まで豊かにするための大
きな仕事なのです。

でも、この世界は、青春をかけて
やってきた若者たちが、三五歳を前
後にして、去って行くという業界で
もあります。

つまり一生をかけるという仕事に
はなっていない仕事場なのです。

何が不足なのでしょう。

私たち自身の自覚でしょうか。

私たちの仕事に対する国民の理解
でしょうか。

早く国民との協同ができる時代を
築きたいものと切望致しております。

では、いま私たちは、何をすれば
いいのでしょうか。

労働者協同組合の決定権を

内山哲朗 工学院大学講師

「よい仕事」をバネにして「労働者
が企業の主人公になる」新しい事業
と運動をぜひ成功させてください。

労働者協同組合の決定権を行使し
てこそ、現実社会の組織も展望さ
れるのだと思います。

「夢とロマン」が現実的な夢とロ
マンとして一層の広がりを持つため

にはさまざまな困難が予想されま
す。しかし、その困難を一つひとつ
解決していくとき、労働者協同組合
の存在は社会的な認知を受けること
になるでしょう。

労働運動と社会運動をつなぐもの
としての労働者協同組合に今後とも
注目し続けていきたいと考えており
ます。

公共的プロジェクトを

視野にいれて

畔上統雄 ㈱ブランド研究所所長

地球住民として自己変革していく
べき時代を迎え、その有力な実践母
体として労働者協同組合への期待が
あります。わが国政府は経済先進国
として二一世紀に向けて、この一〇
年間に四三〇兆円の公共事業投資を
行うと対外的に表明しています。こ
の四三〇兆円が真に国民のために活
かされるためにも、労働者協同組合
の役割は大きなものがあると期待し
ています。

人びとが地球住民としてこれまで
の資源と環境を使い捨てにしていた
生活様式を見直し、自己変革に立ち
向かうとき、労働者協同組合がその
中心にあつて創造的な活動を展開す
ることに重要な役割があると思うか
らです。

当面、各地域の公共的プロジェクト
において組合が新たな役割を担つ
て実践的に取り組むこと、そしてそ
ののための弛まない学習が必要となつ
てきます。

微力ながらも私の役割もそこにあ
るのではないかと感じています。

さがしていた地域に

役立つシステム

千田ゆう子 千葉県松戸市議

ずいっと前から捜していた。どん
な障害を持っていた、残っている

能力を生かすやり方がないもののだろ
うか？

いろんな福祉作業所をまわってみ
ても、資本の論理に組み込まれた場
所での居心地は、恩着せがましく、
同情の目が、どこかに感じられて…

もつと違うやり方、もつとその人の
存在が光る場所がないのだろうか？
そんなときに出会ったのが「じぎ
よだん新聞」でした。

地域に役立つ、いい仕事をやり、
食べられるシステムを追求していた
団体があつた！

本部に訪ねていったら、若い人が
いて…

そう！老若男女がいなくては本
物ではないのです。これだつたら、
主体性と合意のもとで、みんなの能
力を引き出せるのに違いない…。

大きいことがイイことだ？金です
べてが動く？

いいえ、この資本の論理の最たる
日本で、人間の英知を集め、もつと
も原始的な「働く」ことを「価値」
に高める追求、ホワイトカラーが尊
べて、ブルーカラーが汚いなんて価
値観をひっくり返す素敵な営みが
営々と育つていたのです！

…人間の存在と、人間の知恵を確
かめる…この事業団の存在に乾
杯！！

この地域でも、根をはり、実をつけ
るために、微力ながら、貢献したい。

「未来に向かった仕事の
やり方の発見を」

辻卓男 ㈱辻情報サービス

現在の社会をカジノ社会などとい
っていますが「ビジネスはゲームだ」
というように、資本主義社会におい
てビジネスは仕事とは別の次元のも
の。たとえば、よく「仕事を外注す
る、下請けに出す」ということが、
日本社会においては常ですが、ある

自分たちの

システムの創造を

社会・生活システム研究所
斎藤玲子

他人と違うモノや情報で細かな差
異を競いあつた八〇年代が終り、い
ま人びとは共通の場を求めて新しい
集まり方を模索しています。

一方、終身雇用・年功序列制が崩
れて転職時代を迎え、産業組織も従
来の企業主義（辺倒からアメニティ
な職場への転換を迫られています。

さらに社会主義国の失敗により、資
本主義は社会主義が掲げていた社会
正義の実現まで引き受けなくてはな
らなくなりました。時代は今、新し
いシステムの登場を待ち望んでいる
のです。

こういう時に大切なことは、上か
ら与えられたシステムに自分を合わ
せるのではなく、自分たちでシステ

会員募集中!

協同総合研究所

労働者協同組合、
地域・福祉・文化協同のわが国で初めての実践的な総合的研究所

- 主な研究・業務
日本における労働者協同組合の確立への研究・支援・援助
労働運動・地域社会の協同的發展の研究
福祉・文化・教育・ソフトウェアなどの協同化への研究
海外の労働者協同組合情報紹介・インフォメーション
- 主な刊行物:『仕事の発見』(季刊)・『協同の発見』(研究所報・月刊)
- 会費 個人会員・年一万二千元、団体会員・年三万円・出資金(100万円)
- 理事長・黒川俊雄(慶応義塾大学名誉教授)

〒169 東京都新宿区高田馬場4-2-31 瀬古ビル
TEL. 03-5383-6401 FAX. 03-5389-8408

「人間改革の機関」として 杉本時哉 労働金庫連合会

協同組合は人びとの生活のあらゆる分野でのニーズを人間らしく充足していくこと、そのための経済行為を営む社会的組織(人と人との結び

つき)です。そのためにたえず人びとの意識に働きかける問題の発信、問題の掘り起こしが必要で、人びとのニーズの充足、人びとと人との結び付きを形の上で保証しても、それだけでは本物の協同組合とはいえないでしょう。

最近読んだドラッカーの『非営利組織の経営』で「非営利機関は「人間改革の機関である」とありました。協同組合もまたそうありたいものです。一人ひとりが主体を持ち、責任をもち、交流し、相互に理解し、助け合う、そういう関係を社会的組織全体に及ぼす、そういう目標と信念を協同総研の活動を通じて広めたいです。

障害者や高齢者の 暮らしのあり方も 太田貞司

障害者や高齢者の暮らしのあり方を考えてみる中で、私たちの暮らしのあり方をもう一度問い直してみたいと思います。

人生のなかに 大切な原則を 梶原一郎 第一経理

現代の私たちは、これまで人類が築き上げてきた「生産力の発展」「民主主義の発展」という課題の現在の到達点に立っています。しかしそれが、多くの犠牲をとらなければならぬ、多岐にわたる課題を今後展開する上でも、その政治、経済、文化のあり方は油断なく見守っていかなくてはなりません。

そしてこれからは以上の課題とともに「全員による環境保全の原則」と「全員による助け合いと協力の原則」を人生、生活の中に作り上げていかなければならない時代になりました。

労働者協同組合はこれらの課題を解決する上で欠くべからざる必要な組織です。あなたもぜひ参加していただき、これらの課題を追求しようではありませんか。

誇りと協同の 働き場所づくり 藤岡博 立命館大学経済学部教授

私が組合書記を務める立命館大学では、民主的経営体の力を発揮して、地球市民のための世界的水準の学園を他大学よりも低い学費で創造していく事業に挑戦しています。そのための徹底民主主義の上に立つ全学合意の場として全学協議会があります。先日公開全学協議会には、多数の学生を含む一八〇〇名が集まり、貴重な合意を形成できました。

労働者の誇り(働きがい)と協同(思いやり・愛、それにゆとりの要求に依拠し、これに経営者精神の発揚、国民の支持を集められる事業展開、間接費の節約などを結び付けるならば、民主的な経営体の活力によって命令主義的で官僚的な企業をしのぐことができるという確信を深めています。同じ目標を、おそらくはより先進的な組織原則のもとで追求されている労働者協同組合の理論と実践が多くの学んでいきたいと思っています。

マサージ資格を 健常者も 森下良雄 三才興業

①期待すること
大いに普及すべし
②こんな仕事を
身障、特に盲障者(連)と協同してマサージの出張サービスを事業化してはどうか? 私の考えでは東洋医学の一端の予防医学として健康者にマサージ資格の取得を大いに普及し、在宅のお年寄りへの健康増進とできれば話相手・相談相手としての一定の基準水準を得た人が、盲人のマーケットを侵略するのではなく、大いに市場を開拓し、むしろ盲人市場を広げ、一方、東洋医学の価値観(イメージ)をも明らかにし、併せて事業ベースにするという...

③労働運動・階級闘争と矛盾しないか? 異次元の運動ではないわけだから、階級闘争と労働者協同運動との関連性を理論的に研究(整理)されなければならない。すでに発表されている文献があれば紹介して欲しい。また「資本が労働を使う」から「労働が資本を使う」への運動過程等はどう展望すればよいのか? 私は私なりの意見を持っています。が、紙面の都合もあり、提起にとどめておきます。

良質で安価なサービスを 新建築技術者集団常任理事 千代崎一夫

私は仕事上や自分で深めたいこととの関係で「住まいと町づくり」、そして「建築」という点から労働者協同組合に注目し、大いに期待もしています。すでに仕事の上ではマンションの清掃をお願いしていて、実践している姿をいくつかが知っています。労働者が集まって資金を出し合い仕事をすれば望ましいと思います。

一方、業務を提供される側から見れば株式会社でも協同組合でも質がよくて安価ならどちらでも良いというところになります。協同組合が質がよくて安価な製品、サービスを提供していく保証を実践の中でつくっていく必要があります。

高齢者が元気に生活できるまちづくりを

「高齢者生協」づくりの提唱

高齢者みずからが力を出して

仲間をふやして事業をおこそう

「高齢者生活協同組合(仮称)」の構想は、一九九〇年の五月の事業団全国連合会総会で、提起されたものです。その骨格は、つぎのように打ち出されています。

労働者協同組合が、なぜ提案するのか

「医療や福祉のサービスを必要としながら、地域で孤立し、サービスも受けられずにいる高齢者やその家族が、協同・連帯して、サービスを確保し、その内容を充実させるための組織です。同時に、高齢者の要求実現のための運動体として、行政に対する活動も発展させる組織です。高齢者とその家族がみずから組合員となって出資し、あわせて地域福祉の向上を願う団体・個人が賛助的な組合員となつて協同組合を構成しようというものです。

私たち労働者協同組合は、これからの仕事おこしの重要なポイントにゴミリサイクルとこの高齢者生協づくりをおいています。高齢者問題、福祉関連事業をもうけ主義ではなく、もちろんボランティアでもなく、事業化しようと提案します。

その場合、①資金調達、②技術開発(人材の養成)、③国・自治体からの援助、④サービスなど受け手の組織(販路の確保)など、いくつかのハードルを超えなくてはなりません。その意味で高齢者の自主的な生活協同組織がつくれ、私たち労働者協同組合が密接に連携することによって、以上のようなハードルを超えられます。

高齢者生協づくりのひとつの芽は、小誌でもルボした兵庫県の西宮の在宅ヘルパーの経験です。

同一線上につながることによって、実現可能な課題となっています。

また、岡山県の倉敷での約三年間にわたる病棟ヘルパーの実践は、いま現在も継続されていますが(病院側の理由による)、集団としての老人介護は水準の高いものでした。もうひとつの実践的な芽は、長野・三重・粕屋・大牟田事業団などで取り組んでいる給食サービスです。販路の確保など採算性の問題点や自治体の助成など今後の課題もありますが、この給食サービスと高齢者生協づくりは、

全国に高齢者生協づくりを

●地域に高齢者の協同組合を

高齢者とその家族などが自主的な組織をつくり、元気なうちは働きながら、困った時には高齢者にふさわしいホームとか老人給食、訪問看護などのサービスが受けられたらほん

とうに安心できるに違いありません。

「働くこと、生活できること、このことを住みなれた地域で」——この願いを実現するためには、まず高齢者自身が「お客さん」ではなく、主人公として社会的な活動に参加することです。

購読申込み受付中！

じやうだん新聞

働くものが企業・経営の主人公へ
労働者協同組合づくりの日々の動きをフォロー

■主なページ・テーマ■

●労働者協同組合への団づくり ●新しい生き方・働き方 ●生協物流など各地に広がる事業団の取り組み 《キャンペーン》捨てるゴミの向こうに／《キャンペーン》よい仕事とはなにか／《キャンペーン》労働者協同組合の7つの原則 ●労働者協同組合をめぐる他団体とのネットワークづくり ●高齢者生協づくり・アレルギー対策商品売店など ●住井すゑ「初期短編シリーズ」(連載)

毎月1日・15日 発行定価100円 年3400円(送料込み)

■発行所■

中高年雇用・福祉事業団
(労働者協同組合)全国連合会

〒171 東京都豊島区雑司が谷3-22-10
TEL 03-3987-5919 FAX 03-3987-1807

このまま高齢者のための福祉サービスなどを市場原理にまかせるならば、もうけ主義の企業に食い荒らさるることになってしまいます。地域に高齢者の仕事や生活の協同組合を数多くつくることは、「協同組合セクター(部門)」や「公・協コンプレックス(複合体)」のひとつの典型をつくりあげる事業といえるでしょう。

●何からどのように始めるか

労働者協同組合をめざす高齢者事業団の実績を基礎にはじめるやり方と地域で新たに試みるやり方の二通りがあります。いずれにしても、全国連合会や地域の事業団(セクター)事業団の事業所)とよく相談しながらはじめてください。

設立にあたってのプログラムは、次のプロセスが大事です。まず希望する仲間を集め、「設立準備委員会(仮称)」を発足させます。そして、事務所など体制をつくりながら、いよいよ組合員の募集に入ります。そのために、よびかけ文と加入申し込み書(募集のしおり)をつくりまします。

●準備活動とともに事業の開始

事業が軌道にのることが最大の課題となります。たとえば、神戸の事業団はホームヘルプをはじめ約三年になりますが、現在、生活保護世帯の仕事の依頼が急増しています。コーディネーター(事務兼任)の体制ができ、よい介護への信頼が高まったからです。この実績の上に、ホームヘルプの事業と高齢者生協づくりを結びつけることを検討しています。また、託老所づくりも事業として重要な柱です。

●名称や運営もみんなで考えて

名称についてもいろいろな意見が出されています。たとえば、「高齢者福祉協同組合」「ハイ・コープ」などです。定款をどうするかふくめて、高齢者生協の組織などをどう運営するかについても、みんなで話し合いながら決めていくことが大切です。「生協法人」の取得については、全国連合会の援助をうけてすすめてください。

高齢者生協についてQ&A

Q1 なぜ生協なんですか

A1 高齢者生協は、いわば消費者の「購買生協」とどまらず、労働者の「サービス」労働者協同組合ともいえる性格も含まれるため、生協法に合わない面もありますが、生協法人が現行法では最も近い法人格となります。

なお、福祉施設の運営を社会福祉法人としてはじめるときは、高齢者生協はその基盤組織(母体)として位置づけることも検討しています。

Q2 福祉生協とどこが違うのですか

A2 今までの説明でおわかりのように、福祉専門の生協として注目されている福祉生協とは違います。高齢者生協は労働者協同組合(労協)などといっしょに高齢者の仕事と生活の全般を助け合う自主的な協業組織、運動体です。

Q3 公的な責任はどうするのですか

A3 これまでの保育所づくり運動などの経験からいっても、むしろ高齢者生協の活動が

国や自治体の公的責任をきびしく問いかけるものになると考えます。そして高齢者生協は協同と公共との関係をいっそう強める推進力になるでしょう。

Q4 高齢者事業団との関係はどうなりますか

A4 高齢者事業団(高齢者協同組合)を高齢者生協の就労部門として、はつきり位置づけていくことを考えています。

Q5 労働者協同組合との関係は

A5 サービスの送り手と受け手が一体となった組織が高齢者生協ともいえることができませんが、実際上の関係は、かなり緊密な関係になるでしょう。たとえば、専門的な介護のような仕事については、ヘルパー労働者の協同組合(労協)が高齢者生協とは別に運営され——これ自身が現行法のなかでどういう法人の形をとるかも、法制化と合わせてこれからの課題である——高齢者生協と密接に連携することが考えられます。

協 働 者 協 働 者 協 働 者 合 組 合 組 合 組 合 ハ ャ チ ャ チ ャ ン ル ル ル し 探 探 探 労 働 者 協 働 者 協 働 者 同 組 合 組 合 組 合 の チ ャ チ ャ ネ ル ル ル

ほんとうに できることを さしめすこと

学生たちとの対話から

●佐藤和夫 千葉大学助教授

自分の能力を協同して 自発的に働くこと

「ほんとうのところ、こういうものが成り立つとしたら、つまり、人からこき使われることなく、自分たちで連帯し、事業をやっていくことができるとしたら、収入が多少減ってもやる気はないか。」

私は、労働者協同組合の現状と展望について事業団の中西理事長が語った『朝日新聞』の記事を学生に読ませて、こう聞いた。するとどの学生の答えも「やります。でも、ほんとうにできるんですか?」というものだった。

管理され、命令されて働く、奴隷のよ



うなあり方にうんざりしている青年たちは非常に多い。彼らは長時間労働による個人的自由時間の剥奪を恐れ、仕事で自分たちの創意をいかす自発的なものであることを心の底から願っている。

「他人に使われて働くのではなく、自分の意思で、主体的に、人びとと協同して、社会に役立つ仕事をした」という願いは、人類の希望として消えることなく続くものであろうし、その願いを実現しようとする労働者協同組合の意義は、ますます大きなものとなっている。

しかしながら、彼らの間では、自分たちを取り巻く外側の制度や社会組織は、自分たちの自己実現の場ではあり得ず、

消費文化や宗教のような場所以外で、積極的に自分たちの可能性を生かしてくれる機会があることにひどく懐疑的である。労働者協同組合についても、もしそれが可能なら……、強い期待を寄せながら、現実にはできるわけがないと思っている。

企業に身売りして 働く・無力感

青年ばかりではない。人びとは自分の幸福のために人生を選択しようとするが、現代の日本のように、高度に資本主義の組織された社会においては、資本主義の歯車の中に自分を組み込む以外にその欲求の実現はほとんど不可能だと考え

労働運動の一環として 私も期待します

仕事も労働も重視して

城北地域労働組合協議会事務局次長
外谷重二男

私たちの労働組合は中小企業で働く労働者でつくっている労働組合です。

私たちは「中小企業における労働組合活動のあり方」を探索する中で中小企業労働運動を発展させるためにはどうしても労働者協同組合（事業体）が必要であると考えようになりました。いま、数年後の設立に向けて、準備を進めているところです。

労働者協同組合をつくると労働組合運動が弱体化したり、対立したりするのではないかと、この声もありますが、労働者協同組合と労働組合は本来、密接な協力関係が築けるものと思います。

これまで労働組合の活動はどちらかというと「労働条件の向上」という面への重点がおかれてきましたが、これからは「仕事」や「労働」についても重視して取り組んでいかなければならないと、考えています。特に、中小企業の経営危機打開や私たち労働者の資質向上のためにどうしても避けて通ることのできない課題だからです。

そうした意味で「中高年雇用・福祉事業団」の活動から多くのことを学んでいきたいと考えています。

国労も始めた労働者協同組合

小島忠夫 国労本部中調

一九九〇年四月一日に一〇四七名の大量解雇を受けたなかで闘争団の団結をつくるためにいろいろ話を聞いたうえで、労働者協同組合をつくって、生活とたたかいを統一することが一番望ましいと考えて、事業団のみならずの指導を受けてきました。九〇年、八月四日にシンポジウムを開き、九一年の一月九日に第二回のシンポジウムを開催して

ざるを得なくなっている。

七〇年代ならいざ知らず、現代の日本で脱サラをするということが、何らかの私企業を始めるということとしては、ほとんど絶望的に困難であることを、多くの人びとは身にしみて感じている。つまり、自分の私生活が、企業に身売りすることによってしか実現されないという深刻な矛盾の中に生きているわけである。

その結果、個人は表面的には自由になったが、企業の完全な管理下で、自分たちで選んで作っていきける仕事というものについて、ほとんどイメージも希望も持つことができず、「しよせんはしがないサラリーマン」といったあきらめや、雇われ根性を持ち、人生全体を何物かに管理され、操作されたものとして捉え、どこかに無力感を拭えないような状況で生きている。

不可能ではない

私も、一九八八年までは、どちらかというとそんな一人だったのかもしれない。資本主義にも、いわゆる「社会主義」にもうんざりしていた私は、それ以外の国がないものかと思い、「自主管理」という労働者協同組合によく似た形態をとっているユーゴスラビアに暮らす機会を持った。

ユーゴという国のシステムは、今回の内戦にみられるような悲劇的な事態を生み出す面もあるが、一言でいうと「日本と正反対の国」である。つまり、あらゆる

権利と選択権が一番末端の組織と個人にあるのだ。「自己決定」が社会の原則になっており、それゆえに、他人との関係が真剣なものとなっている。だれかに命令され、強制されるのではなく、「自律と協同」がもつとも尊重される社会なのである。そして、ルーミアなど一部を除く東欧社会に共通なことでもあるのだが、友愛主義が残っており、ほんとうに生活を支えあい、信頼しあえる一〇人程度の友人たちのネットワークが無数にくられている。私が訪問したときも、「友人の友人のためには二週間くらい会社を休むのは当たり前だ」といって、助けてくれたが、ほんとうに自由で連帯している社会をみることもできたのである。

日本では、労働者協同組合などというものはだれも知らないといってもいい。しかし、ユーゴの経験話をし、また、スペイン、イタリアでの労働者協同組合の実践例を示して、「こういう可能性もあるんだぞ」と学生たちに訴えたとき、彼らの目つきは変わった。少なくとも、労働者協同組合がまったく不可能ではない、ということとはさしめされたのである。

私は、これまでの「社会主義」が陥った最大の矛盾は、資本主義の最高度の発展を遂げた後に想定しうるものを社会主義の理念としているのに、このような社会主義の実現にはきわめて不利な状態にある社会で、その実践を始めなければなら

ないということにあったと思う。

しかし、注意しなければならないのは、このような困難な条件は、日本のように高度に発達した資本主義の国でも依然として存続し続けているということである。つまり、資本主義は民衆の自治能力を決して主体的にはつくり上げないし、むしろ、「指示待ち」で「雇われ根性」に満ちた受動的な人間を作るだけだからである。

したがって、資本が労働を管理するのではなく、労働が資本を管理し、人間的な友愛的な空間を実現するシステム、だれかが外側から決定し命令するのではなく、みずからが協同して決定していくという労働者協同組合の発展こそが、ほんとうの意味での社会主義につながるというのである。

しかし、この過程もまた、矛盾と困難に満ちたものであり、労働者協同組合がイヤになって資本主義企業に雇われる人が出てくる場合もある。その権利も当然ある。労働者協同組合のようなやり方が社会主義のもつとも望ましいものだとしても、そのやり方以外のものを認めないものもまた社会主義ではない、ということを経験しなければならぬであろう。

そのような、真に自由と人間の尊厳に満たされたものでなければ、人類の歴史を根本から変えるものにはならないと思うのである。

きました。
すでにクリーンセンター福岡や首威子府ではじまっています。地方ではこの一年間で、労働者協同組合の考え方が広がりはじめています。

なんとか発展させて国労闘争の勝利と労働者協同組合の発展とをめざしてがんばります。今後ともよろしくご指導ください。

労働運動と労働者協同組合運動の関係について

芹沢寿良 高知短期大学教授

わが国に労働者協同組合運動が登場して以来、主として労働運動の階級的潮流の内部において、その労働者協同組合運動と労働運動との関係をめぐる論議が今日もおくすぶり続けている。

労働組合運動の後退と停滞の中で、私はその周辺でこれまで見られなかった新しい運動構築の試みが追求され始めたことは、わが国労働運動の今後の基盤と運動領域の拡大、新たな再生にとって大きな意義を持つことだと思っている。

労働者を主体とする労働者協同組合運動はそれらの中でも特に注目されているが、掲げる「方針」というよりも指導者の「言動」が労働運動の階級的潮流の側に誤解を与えているように思えてならない。私は、両者の今日的な存在意義を確認しつつ、たまたか労働運動の全体的再生、発展という見地から双方のリーダーが総合的な討論を組織し、相互に誤解を一掃して役割を明確にした階級的連帯の関係を発展させて欲しいと願うものである。

働くものの自己変革を

黒川俊雄 慶応大学名誉教授

私たち働くものが現体制に対して、その政策に反対して私たちの要求を実現させるために闘うことはきわめて重要なことです。しかし現体制を変革するためには、現体制に依存して要求し、反対するだけでなく、私たちが自立して、閉鎖的でなく開放的にみんなの要求を聞いて、内容的に充足させるための事業

「仕事おごしの経済学」からみた労働者協同組合

●池上 惇 京都大学教授

生存競争を超えて

現代の資本主義社会のもっとも深刻な問題のひとつは、人間同士が「だれかをけ落とさなければ生き残れない」という生存競争に、好むと好まざるとにかかわらず巻き込まれていることであろう。

本来、多様で個性をもった存在である人間が、金もうけがうまいかどうかという基準で競争させられ、多くの人がとは自分自身を「人並み」に維持するのにくたびれて潜在能力を発揮する機会を奪われている。その最たるものが「失業」である。

このような生存競争を克服して、一人ひとりの個性が尊重され、一人ひとりの生きる実感が、仕事の場でも生活の場でもあらゆるところで発揮できるようにすることは、多くの人が心がから願っていることではないだろうか。

こうした願いを、現在の社会のなかで一步一步実現し、社会にしめしていかうとするところに、協同組合、とりわけ労働者協同組合の今日的意義があるといえる。

人権を基礎にした 民主主義的組織

協同組合は、資本主義企業とことなる独自の性格をもっている。

そのことを、ICA＝国際協同組合同盟の「協同組合原則」にうかがうことができる。

- ① 社会的、政治的、宗教的な差別を受けないうで協同組合に加入し、脱退しうること。
- ② 組合員は決定にあたり、出資額に関係なく一人一票の投票権をもつ。
- ③ 出資金にたいする配当によって過大な利益を受けてはならない。
- ④ 剰余金が発生したときは、協同事業の発展のための準備金とする。
- ⑤ 協同の原則を教育するための資金を積み立てる。
- ⑥ 協同組合の相互の間の連帯と協同を強める。

これらの諸原則は、協同組合においては組合員が、決定にあたって一人一票という平等な決定権をもち、個人の人権を基礎とした民主主義的な組織であること。営利を目的とせず、組合員が相互に助け合うことを目的とし、たんに生産や購買などを行うだけでなく、教育事業を並行して遂行することを示している。

株式会社のように、出資額の大きな株主が大きな投票権をもって会社を支配

し、配当に制限がないのとは、対照的である。

協同組合の広がり と生協の発展

協同組合運動には、①生産とサービスの供給を行う事業協同組合、②購買や流通事業を担う消費生活協同組合、③医療活動を担う医療生活協同組合、④教育文化事業を行う教育文化協同組合、⑤信用や共済、保険の協同組合、⑥農業協同組合や漁業協同組合、森林組合などがある。

このなかで、一九七〇年代後半からもうとも大きな伸びをしめたのは、消費生活協同組合であって、一九八五年末で、一一〇〇万人、地域組合員の世帯数比は、一五・七％であった。

消費生活協同組合の発展は、日本の地域社会における消費者運動の高まりと安全で新鮮な食品にたいする強い関心を反映してきた。

生産とサービスの協同組合

他方、生産とサービスの供給を中心とする事業協同組合は、失業対策事業の打ちきり、中高年齢などの失業問題、製造業における争議団運動のなから、一九七〇年代後半以降、急速に発展し始めた。

を、排他的でなく協同的におこしていくことが大切だ。

なぜなら、そうすれば、体制側も、政府・地方公共団体当局は公的責任から、企業も社会的責任から、営利のためでない助成をその事業に行わせるを得なくなるからだ。

しかも、政治革新によって現体制を革新する立場に私たち働くものが立つたとき、新しい体制を自分たちで築いていく能力を身につけておかなければなりません。そのためには、私たち働くものが自身が金儲け主義ではない企業経営と経済運営を行い得るように、働くもの一人ひとりが出資し、協同で管理し労働する、労働者協同組合を作って事業を起こし、市場経済の中で事業活動を進めていくことが必要不可欠なことです。

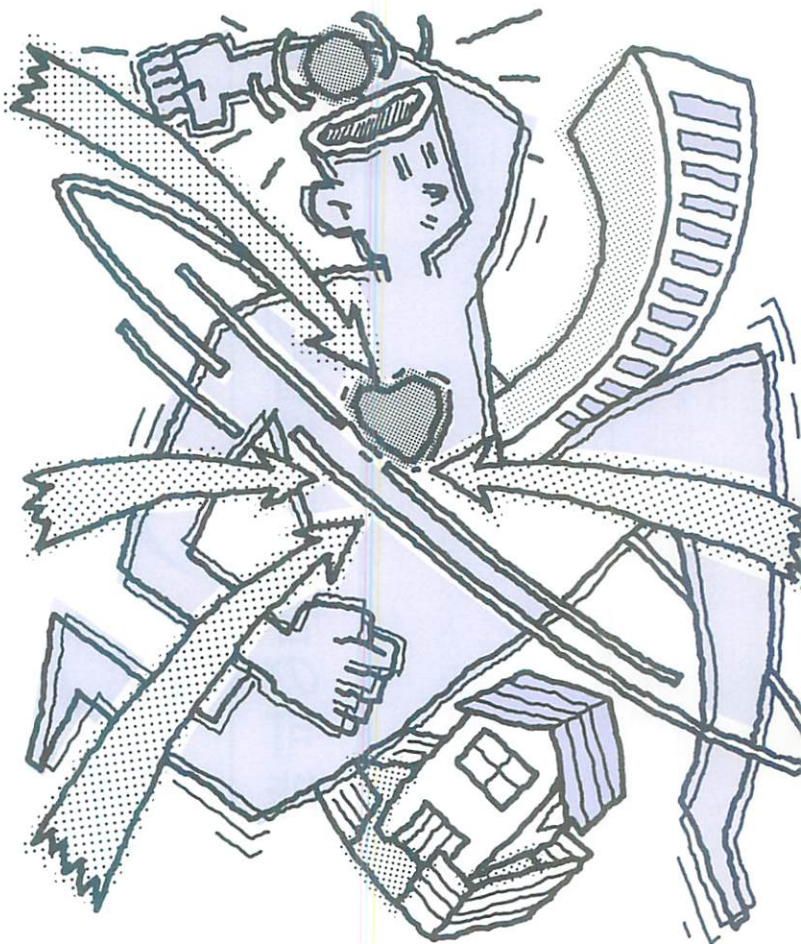
その際、協同組合原則を守り、発展させていくことを心がけるべきでしょう。それは株式会社のような出資比例制ではなく「一人一票の平等な投票権と参加権」を保ち、「民主的な運営」を追求し、金儲け主義に陥らないための「出資配当制限」と、協同組合の存続発展及び社会への還元、組合員の労働及び消費にたいする配当のための基金として処分する剰余金の実現を追求することなどです。このようなことを、ありとあらゆる困難を克服しながらやりぬくことによって、資本が労働を使うのではなく、労働者が資本を使う経営民主主義、経済民主主義を貫くための恰好の場として労働者協同組合が、いま世界各国で作られ、発展してきているのです。

皆さんの健康を期待します。働くものの自己変革なしには社会の変革はあり得ないので

解放感のある「こづねる」

柳沢敏勝 明治大学商学部助教授

あなたは今の仕事に息苦しさをおぼえませんか。もしそうだとしたら、それはなぜでしょう。生活していくのだから、給料をもらって仕事に息苦しさがあったも当然だと思ってい



その中心は、今年で約二〇年の歴史をもつ中高年雇用・福祉事業団である。

事業団活動は、日本における労働者協同組合の確立をめざしており、生産事業における労働の人間化——つまり、生きがいのある労働とそれを支えあう人間関係をとりもどすことを通じて、街づくりや地域づくりに貢献しうる事業を推進しようとしている。

とくに重視されているのが、労働の場における「徹底民主主義」という課題である。労働者が生産の主人公となつて自ら仕事をおこし、利潤第一主義ではない、

新しい協同の原理によって独自の経営能力を育て、「働く」「労働する」というとき、営利主義的な企業経営者の指揮に受身に対応するのではなく、みずからが労働の指揮官であるような労働のあり方を模索しようというものである。

「労働の質」を問う運動へ

このような労働者協同組合の運動は、労働者の「労働の質」を問うかたちをとらざるをえないために、いずれは、労働者の生産やサービスの成果を消費者がどのように評価しているかをたえず認識

し、その結果を労働の場にフィードバックしつつ、新たな労働の質の構築に向かうことになる。

たとえば、ビルメンテナンス事業において、医療現場で働く人びとのかえり問題点を清掃過程で反映させ、注射針の回収システムをつくり、あるいはゴミの処理において住民の欲求を認識し、有毒廃棄物の回収やリサイクルの視点から労働を組織するなどの問題が生じる。

生協と労働者協同組合の相互発展の可能性

日本の生協は、農産物の産直のように、農民の創造的労働と消費者の高い生活欲求を結び付け、協同することによって成功してきた。今後は、さらにひろく「生活の質を変える」こと——人びとが、高い文化性をたえず享受する能力をもった人間として自分を育て、充実した生活をつくっていくことが期待される。その場合、高い欲求をうけとめ、生活の質を支えるサービスや製品をつくる生産者や企業が求められる。

高い労働の質の価値は、住民や消費者の団体が労働者協同組合と組織的に契約を結び、消費者の欲求と生産者の労働が自覚的に関連づけられるにつれて、いつそ明確となり、一九九〇年代において、消費生活協同組合と労働者協同組合の相互刺激的な発展をもたらす可能性を示唆しているといえよう。

こんな疑問をもたれる方は「労働者協同組合」へ出かけてみてください。この協同組合は、自分たちでお金を出し合って仕事を作り出し、みんなで経営をやっているという人びとの集まりです。

そこでは、どんな具合に仕事をするか、どんなふうに関わり合っているのか、全部自分たちで決めなければなりません。それはとても「しんどい」ことかも知れませんが、それは、自分の生き方は自分で決める、その責任にともなう「しんどさ」であって、息苦しさではありません。解放感です。快感です。

保障します。あなたも一度「労働者協同組合」へ出かけてみませんか。

よい仕事をよい人間関係で

木下武男 法政大学講師

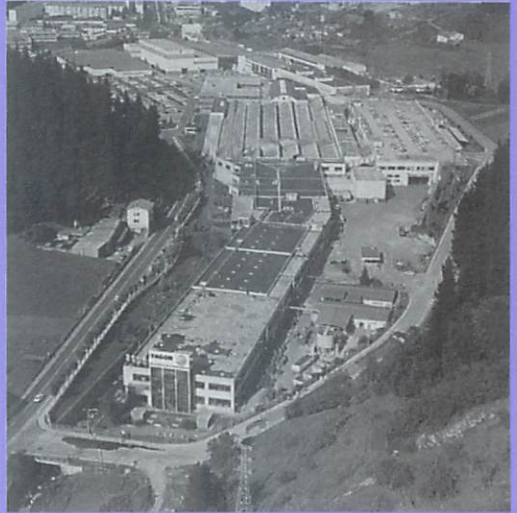
今日の労働は過酷であるし、わけのわからないものをつくらされています。それでも「労働の未来」というものがあるとするならば、それは、ヨーロッパ労働運動の目標となつていて週三〇時間一日六時間労働制くらいのものであつて、同時に経営者の指揮命令のままに働かされるのではなく、労働者同士がフラットな関係で労働ができ、また労働の内容も人間的で環境に有用な生産を行えることだと思ひます。

それは、私たちの手元にあるものではないが、また遠い先の彼岸の彼方にあるものでもありません。三〇時間労働制や社会的平等をつくるのは労働組合の仕事ですが、協同の労働やよい仕事は労働者協同組合が最もよく成しうるところです。

よい仕事をよい人間関係でしたいという願ひはみんな持っています。今の社会であつても、集団の営みの中で個人を磨いていけば不可能ではありません。その場が労働者協同組合なのです。



広がり深まる ヨーロッパ 労働者協同組合



モンドラゴン全景

スペインのハイテクの拠点をつくりだしたモンドラゴン、社会に役立つ仕事をつくり、文化・福祉・先端産業などの新しい分野にひろがるイタリアなどから学ぶ。



ヨーロッパの新しい波

示された労働者協同組合の可能性 菅野正純

「労働共同体」という 「現実的ユートピア」

「もつと人間的な条件で生産するため、どうしてもっとたくさんの方が集まらないのかしら。たとえば、ミヒャエル（エンデ）が、さっき話していた小規模な労働共同体なんかにね。企業が、そこ

で働いている人たちのものになる。そういうことだって可能だわ。労働共同体にぞくする労働者たちがみんな、だれがどの仕事をし、みんなのなかでだれが経営者として最適かというのを、決めたっていいと思う。／報酬の問題についても、おなじように新しく考えなおせるわ。・・・企業の資力をすっかりガラス張りにして、それに応じて額を決める。す

ると全人的な参加が可能になる。そうなれば、たぶん文化的生活といったものの基盤が、そして意味が生みだされる。／これを現実的ユートピアと呼んでいいかしら」

——これは、『モモ』で有名な作家M。エンデと、政治家E。エブラー、演劇人H。テヒルの会話『オリーブの森で語りあう』（丘沢静也訳、岩波同時代ライブラ



イタリアの福祉協同組合



モンドラゴン・ハイテク研究所

スペインで見た労働者協同組合運動

中川雄一郎 明治大学教授

1、モンドラゴン協同組合

E C統合を目の前にして、モンドラゴン協同組合は改良と発展のためのプログラムを進めている。ファゴールをはじめとする生産事業体はME化の促進と在庫管理の徹底化を図って、協同組合運動の発展の諸条件を明示しているが、同時に激しい競争に打ち勝とうとする一種の厳しさもまたかくそうとはしていない。消費者協同組合であるエロスキは順調に発展しており、私的資本の経営するハイパー・マーケットをエロスキが買収したことが新聞紙上で報じられていた(9月上旬)。1989年以降、組合員(=労働者)は2000人増大し、大きな前進を見せている。

1956年に開始され、35年の歴史を経てきたモンドラゴン協同組合運動にも「世代」間のギャップが生まれてきている。このギャップを埋める役割を果たすのが教育である。今、モンドラゴンでは、指導者であったアリスメンディアリエタの協同組合思想と35年間の運動の経験を振り返る教育的作業が行われている。

2、マドリッド労働者協同組合連合会

マドリッドで展開されている労働者協同組合は、3500人の組合員(非組合員を含む)労働者を擁して、公園管理や医療管理事業をはじめとするいくつかの事業を請け負い(この点で、日本の事業団と共通する)、雇用の促進に大いに貢献している。また組合員教育の他に、失業者のための職業教育を行っており、教育プログラムが協同組合運動において重要な機能を担っている。

アメリカの労働者協同組合

富沢賢治 一橋大学教授

他の発達した資本主義諸国と同様、アメリカ合衆国でも1970年代後半以降の経済的・社会的変動の結果、労働者の自主管理の問題が多くの人に関心を集めるようになった。とりわけ顕著であるのは、労働者協同組合と「従業員株式所有制度」(ESOP)の増加傾向である。

数百にのぼる労働者協同組合の内、ここではベニヤ板などの合版の業界の例を見よう。この業界には11の労働者協同組合があり、その生産量は全合板生産量の約20%を占めている。組合の従業員規模は、60から500人である。組合員はすべて労働者協同組合で働くのが原則である。組合の基本的な意思決定は、一人一票制にもとづく総会でなされる。組合の業績はかなりよく、組合員の給料水準は私企業以上である。1970年代の業界の不況期に私企業の倒産が続いたが、多くの労働者協同組合は生き残り、この問題を研究したアメリカ学者は、「労働者協同組合は、企業形態として生存可能な形態であることが実証された」と述べている。

ESOPの試みは、労働者協同組合運動とは質的にかなり異なっているが、80年代以降着実に進展しており、ESOP企業は約7000(労働者1000万人)に達している。ESOP企業を労働者協同組合に転換させる運動も進展している。

「社会的自助グループ」の
広がりードイツ

「社会的自助グループ」とは、一万〜二万二千におよぶ協同組合をはじめ、「疾病・生活援助ー自助グループ」「第三世界グループ」「青年センター」「失業者イニシアティブ」「女性プロジェクト」「平和」教育イニシアティブ」「両親自助グループ」「オルタナティブ新聞、雑誌」「オルタナティブ学校」などの運動で、八六年において四万グループ、四〇万から六〇

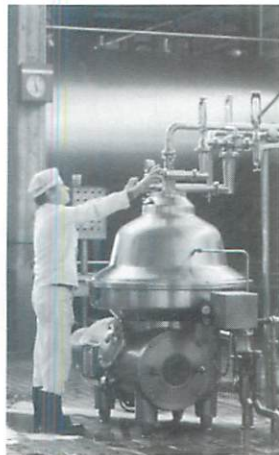
万人が活動しているという(坪郷實『統一ドイツのゆくえ』岩波新書)。

社会的自助グループは、既成政党や労働組合が経済成長の発想から抜け出せない中で、エコロジーやフェミニズム、オルタナティブな都市生活、第三世界との連帯、反核平和などの、「新しい社会運動」の中から生まれてきたものであり、そこから生まれた「社会的自助グループ」も、生活のあり方を根本から変えようという志向に支えられている。と同時に、地域総合ネットワークや地域間ネットワーク、さらには、「基金ネットワーク」や「自主教育ネットワーク」などの支援組織を形成しながら進んでいる点に、発展の可能性を見ることができるといえる。

「社会的経済事業」の拡大
ーフランス

建設、機械、印刷など古くからの労働者協同組合の歴史を持つフランスにおいても、労働者協同組合の新しい波が起っている。ここでは、協同組合、共済組合、自主組織を、営利企業と区別する意味で「社会的経済事業」と呼んでいるが、一九八四年現在、フランスの労働人口の六%、一二四万人がこの中で働いているという(P. エリティエ著、若森章孝監訳『オルタナティブ・エコノミーへの道』大村書店)。

フランスの特徴は、労働組合(CFDT)民主労働同盟が、これまでの運動の狭さを反省する中から、「地域づくり」



仕事おこし」を積極的に推進していることである。運動の狭さとは、生産の編成や企業戦略を経営者の自由裁量に委ねることと引き換えに賃上げや社会保障の改善を得るという立場のことである。かつては通用したこのような運動も、失業や不安定就労の拡大、地域の荒廃、環境危機などには全く無力であることが明らかとなり、労働組合の影響力は大きく後退した。

労働者全体の連帯の回復を目指して、行き着いた結論が、「オルタナティブ・エコノミー」であった。「生産至上主義や資本による最大限利潤の追求、弱肉強食の市場原理が抑制された経済発展のあり方」と「誰もが自分の場を見つけ、承認されるような社会の再建」を目指す戦略である。

社会的経済事業の具体的な活動は、住居の改善や地区の再開発、観光、スポーツ、高齢者向けサービス、若者・失業者・障害者の就労援助、農村地域の活性化、中小企業向けサービス、文化財産の保存などで、ここでも社会的経済振興機関や信用機関を設立しながら進んでおり、八〇年代後半以降の労働者協同組合運動の新しい手堅さを感じられる。

ヨーロッパ労働協同組合のリーダー —イタリア

だが、ヨーロッパ労働者協同組合運動をリードしているのは、何と言ってもイタリアである。建設、工業、先端第三次産業の「生産・労働協同組合」、給食・レストラン、人やコミュニティ、企業に対

するサービスなどの「サービス協同組合」、土地を共有して生産する「農業労働者協同組合」である。

建設はとくに伝統的に強く、イタリアの建設業界の上位にランクされ、高速道路やアフリカ、中近東の灌漑施設など、内外の大規模公共事業も実施してきた。

工業では、繊維、住宅関連、金属機械、木材部門が成長しており、経営危機に陥った企業を労働組合と協力して、労働者協同組合として再建する実績も数多くあげている。プロジェクトやプラント設計などの先端第三次産業は、都市計画や環境アセスメントなどにおいても大きな役割を果たしている。最大の協同組合全国組織レーガ（リーグ）に属する生産・労働者協同組合だけで一三四九組合、労働者七万五七〇〇人、総事業高約七八〇億円、サービス協同組合は一四七五組合、組合員八万九四〇〇人、総事業高約三二七五億円に達している。

イタリアの協同組合運動は、生産・労働、サービス・旅行、農業、漁業、消費、小売商、住宅、文化、共済など、経済と生活のあらゆる面に及び、それらが全体としてナショナルセンターを組織している点の特徴である。

そのために多くの人々が協同組合の経験に依拠し、住宅のほしい人たちが住宅協同組合をつくって土地投機とたたかい、望ましい住居と地域のあり方に発言権を持ち、建設協同組合や、設計・都市計画の専門家の協同組合が質の高い居住環境を提供する……という協力が可能になる。演劇や放送、文化、先端ソフトウェアなど新しい分野の担い手たちも、専門

的能力を発達させ、社会に役立つ仕事ができる形態として、協同組合方式を選んでいる。最近では、人間らしい老後と障害者の労働と自立援助、麻薬中毒患者の社会復帰、学童保育などの福祉協同組合が、自治体との連携のもとで成長し始めている。

部門別タテ割でなく、統一した協同組合運動組織であることから、イタリア協同組合運動は、経済や社会のあり方について、たえず総合的な立場から問題提起を行なってきた。レーガは、最近の大会で「企業を興す権利」を労働者・市民の権利として確立し、自らその実現を追求することを掲げている。破産したソ連・東欧の国家社会主義と、資本主義大企業主導の経済を共に超えていくためには、労働者・市民が集団として企業家になることが不可欠だというのである。「労働者」「企業」「経営」「資本」など、労資双方がこれまで馴染んできた資本主義的概念の根本的再検討を迫る呼びかけである。

教育・研究を備えた ハイテクの拠点 —スペイン・モンドragon

「労働者協同組合は、せいぜい経済の周辺にとどまる存在に過ぎない」という「通説」を事実でくつがえしたのは、スペイン・バスク地方のモンドragon協同組合群である。

カトリックの神父アリスメンディアリエタが、戦後、フランコ独裁下で、モンドragonの町を協同の事業と生活で復興



イタリア・レーガ（建設協同組合）

●広がり深まるヨーロッパ労働者協同組合

「協同組合」精神がシミジミわかった！—イタリアの協同組合運動

手島繁一 法政大学講師

91年の夏から秋にかけての長雨は、いったいだれのせいなんだろうか？ というのは日本の話で、イタリアの空はそれは、もうメディトリアンブルーでした。

世界最古の大学は、ご承知のようにイタリアにあります。イタリアの中部、といっても緯度からいえば北海道の北の果てにあたるのですが、そのさらにまん中あたりにあるボローニャ大学がそれです。12世紀の創建です。このヨーロッパ屈指の名門大学が、実は協同組合運動のメッカなのです。学生たちは、在学中からあたりまえのように協同組合運動に顔を突っ込みます。

日本の学生と大きく異なるのは、進路の選択肢のなかで、大企業に「入る」という意識が希薄なことです。「社会的に意味のある／自分の能力をいかせる」「仕事」を「する／つくる」ことが彼らにとってはより重要な職業選択の基準になっていることです。

障害者の社会参加のためのさまざまな教育システムやサービスを編みだしているスベップ・コープのエリザベッタさん、イタリアの牛乳販売シェア第一位を誇る協同組合企業チェルブルのチカラさん、「ジャポネーゼが来たのは初めてだ」とニコニコしながらワインを注いでくれた農業労働者組合のマッツィーニさん、などなど…

イタリアの空の青さは、実は彼らの明るさのせいであつたかと、思ってもみるのでした。

MORUTO GRAZIE!

イタリアからの想い

岡田全弘 自治労連愛知県本部副委員長

イタリアにおける協同組合の誕生は、約100年前にさかのぼるが、共同パン焼き工場から始まった。

物価高、生活苦、飢えからのかれるためにパン焼き工場をつくり、次には消費者生活協同組合へと発展していくが、それも次には荷馬車協同組合、レンガ工、左官協同組合などの労働生産協同組合に到達する。ここには、地域性、職業性の協同連帯の思想があった。この協同組合の限界を乗り越える労働組合（カーメラ・デル・ラボーロ）が、この後発展し、今や両者の協力、共同の運動に高まっている。

ひるがえって日本を見るにつけ、この地域性、職業性（産業別といった方がよいのか）の欠如が労働組合にあるようである。

イタリアにおいては労働組合の内部（産業別を超えた）ばかりではなく、協同組合、政党との間にも、幹部の任務移動があるが、これも各組織の独立と、協力・共同の関係を密にし、共に前進させる役割も果たしている。

今日の複雑で困難な情勢の中ではもう一度、労働組合や協同組合の運動の原点から見つめ直していくことが必要であると痛感する。

OVERSEAS REPORT

ヨーロッパの運動が示唆するもの

九二年市場統合を控えて、労働者協同組合はCECOP（セコプ）ヨーロッパ

しようとしたことから始まった、この協同組合群は、銀行（労働人民金庫）や工業技術・ハイテクノロジーの研究所（イケラン）、工業技術学校を擁し、人口三万の山あいの町に二万三千人の組合員・一六五の協同組合を配するに至っている。その中心は、労働者協同組合で、最大の企業ファゴール・グループは、スペイン一の家電メーカーであるとともに、産業用ロボット、工作機械、海外工場ブランド建設などを行ない、現代的工業協同組合の可能性を事実で示し続けている。

労働者協同組合委員会）に結集して、事業と政策の両面からヨーロッパ規模の統一した運動として新たな飛躍を遂げようとしている。

このようなヨーロッパの動きが示唆するものは何であろうか。経済評論家の内橋克人氏は『尊敬おこなわざる企業』（光文社）の中で次のように述べている。「いま地球環境や市民社会に敵対する企業に対して、市民がもつとも厳しい対決姿勢をとり、企業を追いつめているのはヨーロッパ諸国である。それはなぜか、といえば、ヨーロッパには長い生活協同組合（協同組合全体のことと思われる「引用者」の歴史があるからであり、人びとは少なくとも自分自身の生活についてのヘゲモニー（取捨選択の決定権）は絶対に私企業に譲り渡してはいない、とい

う確たる信念とともに生活しているからである」「二十一世紀に生きつる企業は、こうした利潤動機以外の動機を行動理念として掲げ、実践する『もう一つの製品・サービス供給集団』などと比較され、地球環境や市民社会に与えるトータルな利害における大小、役割としての優劣、などを仮借なく検証、査定されるようになるだろう」

そうだとすれば、ヨーロッパの労働者協同組合が問いかけているのは、まさに企業や経済のための人間と生活、という転倒された姿から、人間と生活のための企業と経済への転換を私たち日本人も行う用意があるのかどうか、ということに他ならない。ヨーロッパから主体的に学びつつ、共に前進することが求められているのである。（協同総研専務理事）



好評発売中!!

憲法はジョークか? PKO法案は国際貢献の道か?

平和憲法と真の国際貢献を問う

一四八人の激辛発言!

ちよんぽんぽん



●日本の『国際貢献』を問うなほも
刊行委員会編 定価一六〇〇円

『ちよんぽんぽん』刊行委員会 阿部謹也・安斎育郎・石垣綾子
・井田恵子・江口圭一・近江幸正・岡倉古志郎・奥平康弘・小山内美江子・串田孫一
・柴垣和夫・柴野徹夫・寿岳章子・杉原泰雄・関屋綾子・中村政則・樋口恵子
・堀場英也・増田れい子・森村誠一・宮崎繁樹・山住正己・山田洋次・渡辺 治・渡辺洋三

●平和憲法の理念の実現に強い思いを抱き、「国際貢献」という名のもと、背広を着た軍事大国の一員として名乗りをあげようとする日本のいまを問うかける識者一四八人の発言!

早川一光(京都・堀川病院顧問/ぼけ老人をかかえる家族の会相談医)著 定価一三〇〇円

ほうけてたまるか

ボケない方法しかと教えます。誰れにもやってくる老いと心配な「ボケ」。『ぼけ老人をかかえる家族の会』相談医が「逃げるな、避けるな、怖れるな」とボケない秘訣を語る。

林 幸雄(社会保険労務士)著 定価一六〇〇円

定年前から考える年金と医療

「定年」後のあなたの生活プランを考えるための年金と医療制度の活用。長年の相談活動のなかから具体的な事例をもとに、あなたが気になる問題についてねいに答えます。

●アウトドアライフが家族を変えた!

家族友遊び

パパ、かぞくともあそびなさい

清水國明(元・あのねのね)著 680円

究極の「野遊び人」清水國明がわが子につきつけられた挑戦状=「ねえパパ、もっと家族と一緒に遊びなさい!」。「家庭内難民」だった清水パパの存在をかけた汗まみれのたたかいが始まる。

●協同組合での仕事改善の新提案

コープ・ワーカーズ考

協同組合労働研究会編 1800円

(ユークロ事業連合専務理事諮問機関)
生協はどこに向かうのか。協同組合運動の価値が問われている今、生活とのかかわりから生協の仕事の意義をつかみなおし、仕事のありかたを提案する関係者必読の労作。